

文部科学省認可通信教育  
(通信教育補助教材)

# 学 習 要 項

～ 講義内容と授業計画 ～

令和2年度(2020年度)

〈 保 育 科 〉

近畿大学九州短期大学  
通 信 教 育 部

## 目 次 (通信授業科目)

### 【共通教育科目】

1年次	・基礎法学	1
	・生命科学	2
	・人体生理学	3
	・健康科学	4
	・情報処理入門Ⅰ	5
	・英会話Ⅰ	6
	・日本国憲法	7
	・国語表現法	8

### 【専門教育科目 (必修)】

1年次	・幼児の心理学	9
	・教育原理	10
	・造形表現 (指導法)	11

### 【専門教育科目 (選択)】

1年次	・幼児と言葉	12
	・幼児と人間関係	13
	・幼児と環境	14
	・社会福祉	15
	・社会的養護Ⅰ	16
	・教職概論	17
	・教育課程総論	18
	・音楽 (理論)	19
	・教育方法論	20
	・児童文化	21
	・図画工作Ⅱ	22
2年次	・教育相談	23
	・子ども家庭支援論	24
	・幼児体育Ⅱ	25
	・言葉Ⅱ	26
	・健康Ⅱ	27
	・乳幼児心理学	28
	・子どもの食と栄養	29
	・幼児への特別な支援	30
	・子ども家庭福祉	31
	・保育原理	32
	・子どもの保健	33
	・保育の心理学	34
	・青年心理学	35
	・子ども家庭支援の心理学	36
	・多文化共生保育	37
専攻科	・乳児保育Ⅰ	38

## 目 次 (面接授業科目)

### 【共通教育科目】

1年次	・生涯スポーツ	39
	・情報処理入門Ⅰ	40
	・英会話Ⅰ	41
	・国語表現法	42

### 【専門教育科目 (必修)】

1年次	・幼児と音楽表現	43
	・造形表現(指導法)	44
	・音楽表現(指導法)	45
	・健康(指導法)	46
	・人間関係(指導法)	47
	・環境(指導法)	48
	・言葉(指導法)	49
	・教育心理学	50
2年次	・音楽表現技術	51
	・幼児と健康	52
	・幼児と造形表現	53

### 【専門教育科目 (選択)】

1年次	・教育実習事前事後指導	54
	・保育内容総論	55
	・劇あそび(指導法)	56
	・児童文化	57
2年次	・保育実習事前事後指導Ⅰ(保育所)	58
	・保育実習事前事後指導Ⅰ(施設)	59
	・保育実習Ⅰ(保育所)	60
	・保育実習Ⅰ(施設)	61
	・教育実習	62
	・言語表現	63
	・乳幼児心理学	64
	・子どもの食と栄養	65
	・障害児保育	66
	・社会的養護Ⅱ	67
	・子育て支援	68
	・青年心理学	69
	・多文化共生保育	70
	・保育・教職実践演習	71
専攻科	・乳児保育Ⅱ	72
	・子どもの健康と安全	73
	・保育実習事前事後指導Ⅱ	74
	・保育実習事前事後指導Ⅲ	75
	・保育実習Ⅱ	76
	・保育実習Ⅲ	77

# 通信授業科目



<b>科目名：基礎法学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：講師 清澤 亨</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 私たちの毎日の生活行為はすべてが「法律行為」であり、意識はしなくても常に何らかの形で法との関わりをもちながら生活しているわけです。そこで、本講座では、私たちの日常生活において知っておくべき基礎的な法律および法律行為の実態を学びとり、法という視点から自らの生活のあり方を思索するとともに、現代社会におけるものの見方や考え方を養っていくことを学習の到達目標としています。	
<b>【学習上の留意点】</b> 法学という学習を難しくとらえずに、毎日の生活行為の社会規範（ルール）を少しでも学問的に理解していくととらえてください。したがって、すでに認識されている社会常識がベースになりますので、それを法的視点から確認していくというつもりで学習してください。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 設問をよく読んで、設問の意図（何が問題点であり、何を問うているか）を正しく理解してください。設問の意図をつかんだら、そのことを念頭において関係する部分のテキストを熟読してください。最初は通読し、2回目からはポイントとなる部分にアンダーやマークを付けながら精読し、3回目は、重要な部分や関係する部分を書き抜きながら、レポート作成の材料集めをしていくと、大体、何を中心課題として展開していくべきかが解るはずですよ。 H29年4月発行の新テキスト（全改訂版）では、冒頭の【学習指導】で、「課題レポートの作成と試験対策」が書かれていますので、よく読んでおいてください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> レポート課題となった部分から多く出題されます。したがって、レポート書きを単にテキスト等の書き写しではなく、十分理解しつつ自分の文章として書き上げていけば、それがそのまま試験のための学習にもなります。その意味から、提出したレポートの写しをとっておくのも対策の一つでしょう。設問の仕方は違っていても類似する問題があるので、問題集を分野ごとに整理しておくことが得策です。	
<b>【成績評価方法】</b> 試験は理解度を試すものですから、少々下手な文章でも、その問題についてどの程度理解しているかが評価の基準になります。3問中2問選択、1問50点×2問＝100点（60点以上合格）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「基礎法学」 参考文献：テキストの巻末に紹介しています。	

<b>科目名：生命科学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 高木 義栄</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>地球上には多種多様な生物が存在し、それぞれが直接的・間接的にかかわり合い、支えあって生きている。人類もその一員である。一方、人類は地球の環境に影響を及ぼし、他の生物の存在を脅かし、自らも滅ぼそうとしている。このような人類の存在を問い直し、地球における人類の本来の姿を再認識することにより、将来の実社会に役立つ科学的・生物学的知識と見識を身につける。そのためにヒトを含む生物の進化の歴史、他の生物との形態的・生理学的な比較、人体における様々な機能・しくみ、地球環境、人類と自然とのかかわりに関する様々な事柄を学び、それぞれについて説明することができるようにする。また、これらの学習をとらして宇宙船地球号の乗組員の一人であることの認識を高める。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>教科書を中心に基礎的な用語の意味や事象を頭に入れるとともに、参考文献や新聞、ネット等の関連情報に目を通しておく。特に環境問題に関するものには一通り目を通し、その原因や現状を把握すると同時に、その問題に対する自分なりの考え（解決策など）を持つようにすること。単なる言葉の意味の暗記とならぬように注意し、関連した内容とのつながりを考慮しつつそれぞれの事象の本質を理解するように努める。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>ネットを含む参考文献の文章を丸写しするのではなく、該当箇所をよく読んで整理し、テーマに沿った全体の流れを自分の言葉で表現しつつ形成する。内容によっては物語風にアレンジするのもよい。一度書いたものをそのまま提出するのではなく、数回読んでおくと、誤字や脱字、日本語としておかしい文に気づくことができる。「ウィキペディア」は内容の学術的信頼性が低いので参考にしないこと（再提出の可能性あり）。教科書、ネットを含む参考文献の丸写しがある場合、再提出とします。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>解答は文章で行い、箇条書きや図解は認めない。専門用語は漢字で正確に書き、忘れた場合はひらがなで書くこと。単なる言葉の意味だけでなく、関連した事象についても触れる。各設題に関係する部分を抜き出して、コンパクトにかつ重要事項を含むようにまとめて、自分なりの解答集を作成して記憶するとよい。「ウィキペディア」は参考にしないこと。「ウィキペディア」の内容の使用があった場合、内容によっては減点となる可能性があります。大問・小問あわせて3題しかないので、それぞれそれなりの分量で解答すること（特に(1)は1枚の半分ほどは埋める）。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>科目終末試験（50%）、レポート（50%）</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：荒井秋晴ほか著『新版 ヒトと自然』東京教学社 2000年  参考文献：ロバート・シャピロ著『生命の起源 科学と非科学のあいだ』朝日新聞社 1988年  松井孝典著『地球＝誕生と進化の謎』講談社 1990年  松澤桂子著『卵が私になるまで』新潮社 1993年  橋川次郎著『なぜたくさんの生物がいるのか?』岩波書店 1995年  NHK取材班著『生命 40億年はるかな旅』日本放送出版会 1994年</p>	

<b>科目名：人体生理学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 高木 義栄</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>人体生理学をとおして直接的・間接的に実社会に役立つ教養・知識を身につける。すなわち、人体の基礎知識や生理機能を理解し、ガン・エイズ・高齢化などの社会的に関心の高い問題と関連させることで実生活における人体生理学の知識の活用能力の向上をめざす。これにより、身の回りに起こりうる健康や福祉の問題を正しく理解でき、適切な対応が可能になる。また、生命科学などの関連分野の知識も含め、いろいろな生物との比較からヒトの特徴を把握し、人間中心から、よりグローバルな視野でヒトを見つめなおす姿勢を身につける。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>教科書を中心に基礎的な用語の意味や現象を把握するとともに、参考文献やネット、新聞等の情報に目を通しておく。特に生理学・医学上の新たな知見については、複数のソースから情報を得ておくこと。単なる言葉の意味の暗記とならぬよう注意し、相互に関連した内容とのつながりを考慮して生理的機能や現象を理解するよう努める。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>ネットを含む参考文献の文章を丸写しするのではなく、該当箇所をよく読んで整理し、テーマに沿った全体の流れをつくる。内容によっては小説風（物語風）にアレンジするのもよい。</p> <p>一度書いたものをそのまま提出するのではなく、数回読んでみて、誤字・脱字や日本語としておかしい文になっていないかチェックするとよい。「ウィキペディア」は、内容の学術的信頼性が低いので参考にしないこと（再提出の可能性あり）。参考文献（教科書・ネットを含む）の丸写しがあった場合は再提出とします。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>解答は文章で行い、箇条書きや図解は認めない。専門用語は漢字で正確に書き、忘れた場合はひらがなで書くこと。単なる言葉の意味だけでなく、関連する事象に留意しておく。各設題に関する部分を抜き出して、コンパクトに、かつ重要事項を含むようにまとめ、自分なりの解答集を作成してから記憶するとよい。「ウィキペディア」は参考にしないこと。「ウィキペディア」の内容の使用があった場合、内容によっては減点となる可能性があります。大問・小問あわせて3題しかないので、それぞれそれなりの分量で解答すること（特に(1)は1枚の半分ほどは埋める）。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>科目終末試験（50%）、レポート（50%）</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：磯野日出夫ほか著『図説 解剖生理学』東京教学社 1990年  参考文献：梁井貴史著『人体探訪』泉文堂 2000年  NHK取材班著『驚異の小宇宙・人体』日本放送出版協会 1993年  NHK取材班著『驚異の小宇宙・人体Ⅱ 脳と心』日本放送出版協会 1993年  堺章著『目でみるからだのメカニズム』医学書院 2000年  安藤幸夫監修『全図解 からだのしくみ事典』日本実業出版社 1992年</p>	



<b>科目名：健康科学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 堀田 亮</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ・健康維持や体力向上に対するスポーツ活動のもつ教育的意義について説明することができる。 ・「生涯スポーツ」や「Sports for all」の理念を推進していく上での条件整備の在り方について批判的に考えることができる。	
<b>【学習上の留意点】</b> テレビ、新聞・雑誌、インターネットにおける健康・体力、スポーツに関する情報（とりわけ子どもを対象とするもの）に日常的に関心を向けておくこと。 地域における様々なスポーツイベントに主体的に参加したり、子どもや高齢者、障がい者を対象としたスポーツ活動へボランティアとして参加することを通して、地域社会におけるスポーツ活動の現状に対する理解を深めておくこと。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テーマ：現代社会におけるスポーツの意義と課題 1. ①「スポーツの意義」（スポーツに期待されること）と②商業主義、勝利至上主義などの問題点と課題を指摘できるような「スポーツ」「からだ」「健康」「体育」「運動」「保健」などの語句をキーワードにした新聞・雑誌記事を収集する（インターネット検索も可）。 2. レポート作成者なりのスポーツに対する考え方を展開させやすい記事を選択し、有効に活用しながらレポートを記述していく。 3. 引用した記事をA4の用紙（レポート用紙と同じ大きさ）に貼り、レポート用紙末尾にホッチキスでとめる（収集したすべての記事を添付する必要はない）。記事の出典を必ず記入すること。 例）〇〇新聞、2014／2／12朝刊	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 上述したレポート作成の過程で、様々なスポーツ現象に関わった情報に関心を向けることが必要である。その上で、そうした情報を鵜呑みにしたり、振り回されるのではなく、自ら具体的に情報を収集し、適切な情報を選択し、自分の頭で考えながら実践していくために必要なスポーツや健康に関わった知識を獲得したり、関心・意欲・態度を身に付けてもらいたい。したがって、設題1～5では、テキストや参考文献の記述内容に頼る（引用する、丸写しするなど）だけではなく、「自らのスポーツ（健康）に対する考え方」を述べたり、「自らの体験をふまえて」解答することが求められる。	
<b>【成績評価方法】</b> <b>レポート：</b> ①記事の収集方法及び内容、②収集した記事の活用能力、③レポート作成者なりのスポーツに対する考え方の展開 <b>科目終末試験：</b> ①設題に対する理解度、②設題内容に関する論述内容、③「自らの考え方」「自らの体験」「具体的事例」の論述内容	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「生涯スポーツ・健康科学」 参考文献：玉木正之著「スポーツとは何か」講談社 酒井青樹・峯岸純子著「スロースポーツに夢中！」岩波書店 永井洋一著「少年スポーツ ダメな大人が子供をつぶす！」朝日新書 伊藤数子著「ようこそ、障害者スポーツへ」廣済堂出版	

<b>科目名：情報処理入門Ⅰ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>テキストの第1章「情報処理の基礎」～第3章「ソフトウェア」を学習範囲とし、情報の意味とコンピュータの発達過程、ハードウェア／ソフトウェアについて概観します。</p> <p>演習では、Word（ワープロ）・Excel（表計算）・PowerPoint（プレゼンテーション）のオフィススイートの基本操作を習得することを目標とします。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>インターネットや雑誌などを併用し、最新技術や動向を調べましょう。大切なのは、内容を自身の言葉で説明できる程度にまで理解し検討や考察を加えることです。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>引用は最小限に抑え、書籍名だけでなくウェブページについてもURLなどを示すこと。また、必ず私見を示すように努めてください。ウェブページや書籍などの丸写し或いは酷似したレポートは無条件に不合格とします。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>教科書の内容を丸暗記するのではなく、インターネットや雑誌も活用して、自身の言葉で説明できるようになるまでに内容を習得してください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポート、科目終末試験を総合評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：『情報処理入門』</p> <p>参考文献：近年のトレンドを探る上で、「日経パソコン」や「日経ネットワーク」等の雑誌をお勧めします。</p>	

<b>科目名：英会話Ⅰ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 松原 留美</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 日常生活の中でよく使われる英語表現を学び、自分自身の事を表現する事ができるようになることが目的です。この授業では保育園や幼稚園で必要となる英語を学んで行きますが、園での先生と園児または保護者とのやりとりは、日常に関するものがほとんどです。4技能をバランスよく学習し、身近な英語表現を知る事によって自分自身の英語力を高めていきましょう。	
<b>【学習上の留意点】</b> 積極的に辞書を使用しましょう。スマートフォンに辞書アプリを入れておくと気軽に検索する事ができます。スクーリングでも使用します。(電子辞書でも可)	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキスト「Happy English for Childcare」(金星堂)のUnite 1～14の中から3つUniteを選び、リスニングを含むすべての問題や課題をレポート用紙に解き、まとめてください。尚、Unite 4、6、13のいずれか一つは必ず選ぶようにしてください。Readingパートの長文は日本語訳もしましょう。その際、調べた単語やイディオムも書き入れておきます。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストのすべてのユニットから出題します。テストは単語問題、表現問題、並び替え、和訳問題の4パートとなります。テキスト内でピックアップされている単語や文章をしっかりと確認しておきましょう。	
<b>【成績評価方法】</b> 試験の成績をもとに、レポートの状況も踏まえて評価、採点されます。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「Happy English for Childcare」(土屋麻衣子著、金星堂)	

<b>科目名：日本国憲法</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：講師 清澤 亨</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 日本国憲法は、国の基本法として日本の政治と国民生活の基本的なあり方を指し示したものですから、憲法がもっとも大切にしている原理・原則は何か、そして、その原理・原則を実現するための政治のしくみはどうなっているかを体系的に学習していかなければなりません。その学習において、憲法が求めている“日本の姿”と現実社会との間にいくつかの矛盾や問題があることにきっと気づかれるでしょう。それら矛盾や問題をひとりの国民としていかに考えるか、そのリーガルマインドを養っていくのが、憲法学習の到達目標です。	
<b>【学習上の留意点】</b> 先の学習目標から、憲法学は決して覚える学習ではなく、つねに問題意識をもって自らの認識と考えをもつ学習でなければなりません。そのためには、まずは関係する憲法条項を必ず参照しつつ、その意味内容（一般的な解釈）理解し、そこでの問題としてどのような問題点があるかを認識することです。テキストは、各条項にわたっての一般的な解釈を平易に解説し、そこでの問題点を指摘してしますので、何よりもテキストを熟読することが大切です。そこで基本的なことを理解し、さらに不足分を補ったり詳しく学習するときは参考書にも手をのばしていきましょう。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 先ずは設問をよく読んで、設問の意図（何が問題点であり、何を問うているか）を正しく理解してください。設問の意図をつかんだら、そのことを念頭においてその部分のテキストを熟読してください。最初は通読し、2回目からはポイントとなる部分にアンダーやマークを付けながら精読し、3回目は、重要な部分や関係する部分を書き抜きながら、レポート作成の材料集めをしていくと、大体、何を中心課題として論じていくべきかが解るはずですが、その場合、具体例（判例）があるときは必ず参照してください。より理解を深めることができます。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> レポート課題となった部分から多く出題されます。したがって、レポート書きを単にテキスト等の書き写しではなく、十分理解しつつ自分の文章として書き上げておけば、それがそのまま試験のための学習にもなります。その意味から、提出したレポートの写しをとっておくのも対策の一つでしょう。	
<b>【成績評価方法】</b> 試験は理解度を試すものです。少々下手な文章でも、その問題についてどの程度認識し理解しているかが評価の基準になります。「六法」持ち込みによる条文引用だけでは点になりません。3問中2問選択、1問50点×2問=100点（60点以上合格）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「日本国憲法」 参考文献：テキストの巻末に紹介しています。	

<b>科目名：国語表現法</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 皆川 晶</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な文章表現のルールを理解し、言葉を用いて豊かに表現したり、理解したりする能力を身につけることができる。</li> <li>・ 文章の構造を意識しながら読む力を身につけ、論理的に自らの意見を述べる方法を身につけることができる。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>テキストをしっかりと読んで、自分なりの感覚を大切にして、日本語の理解に努めてほしい。日頃から新聞・書物に親しみ、言葉に対する感覚を磨き、多様な表現方法を理解すること。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>設題に関連する資料を探し、それらを参考にしながら自分の意見をまとめる。テキストをしっかりと熟読すること。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>試験はテキストから出題される。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>試験、レポートで評価する。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：石黒圭著『よくわかる文章表現の技術Ⅱ－文章構成編－〔新版〕』明治書院 2009年</p>	

<b>科目名：幼児の心理学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 木下 寛子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 心理学の知識を学ぶことを通して、保育において心理学の視点を生かせるようになることを教育目標とする。人はどのように学習を行っていくのかということや、どのように人間関係を築いていくのかを学ぶ。また、心理学における様々な研究から得られた知見を学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになることを目指す。	
<b>【学習上の留意点】</b> あらかじめテキストを熟読しておくこと。心理学の知見を実際に保育現場でどのように活用できるのかを考えることが重要であり、自ら主体的に考え、学習に取り組む姿勢が必要です。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキストを十分に読み、関心のあるところ、分からなかったところについて、他の文献を調べ、理解を深めてください。レポートは学習した内容に関して自分の考えをまとめるものです。テキストをそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせたりしただけのレポートにならないよう、自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現してください。 テキストや参考文献からの引用は、引用個所と文献を必ず明記してください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストを熟読してください。受験の際の文献の持ち込みは認めません。	
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートに関しては、内容の首尾一貫性、設題に的確に文章によって答えているかという点と、説得力のある自分なりの考えを記述できているかを中心に評価します。</li> <li>・科目終末試験に関しては、設題の意図を的確に反映した文章での回答をしているかどうかという点と、自分なりの考え、意見を記述できているかという点を中心に評価します。</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：伊藤健次編『保育に生かす教育心理学』みらい 2008年 参考文献：岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』新曜社 2004年 塚田みちる・岡本依子・菅野幸恵『エピソードで学ぶ保育のための心理学』新曜社	

<b>科目名：教育原理</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 垂見 直樹</b> <b>講師 大間 敏行</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ①教育の本質・意義・機能に関する理論や知識を習得すること。 ②現代社会における教育の諸課題について考察する力を身につけること。 ③幼児期の教育の基本原理とその特徴を理解すること。	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>教育学の基礎知識をしっかりと頭に入れるという意識がまず重要です。そのうえで、現代社会における教育の諸課題について考察し、自分の考えをまとめられるようになりましょう。どのような教育が望ましいのか、現代社会を生きる子どもたちに必要な教育とは何か、という実践的な課題を念頭において学習を進めることが望ましいでしょう。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>レポート課題においては、以下の諸点を重視しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育の問題に関心を持って、主体的に題材を探すことができるか</li> <li>(2) 文献やインタビューを適切に活用し、新たな知見を獲得できているか</li> <li>(3) 文章の体裁（常体・敬体の統一、段落最初の一文字下げ等）や参考文献の明記など、形式面が整っているか</li> </ol> <p>文献の内容丸写しのレポートや、何も調べずに自分の考えだけを書き連ねているようなレポートでは合格としません。教育に対する理解を深めたいという意識を強く持って取り組みましょう。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>科目終末試験では、テキストの内容をしっかりと学習し、理解できているかを重要視します。対策としては、テキストを熟読することはもちろん、内容を要約した模範解答を予め自分で作成してみるとよいでしょう。テキスト以外の文献からも情報を補うことができれば、より良い学習につながります。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・科目終末試験</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：垂見直樹編著『保育のための教育原理』ミネルヴァ書房 2019年  参考文献：文部科学省著『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2008年  広田照幸著『教育学（ヒューマニティーズ）』岩波書店 2009年  天野郁夫編『教育への問い 現代教育学入門』東京大学出版会 1997年  佐伯胖著『幼児教育へのいざない』東京大学出版会 2001年</p>	



<b>科目名：造形表現（指導法）</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 竹永 亜矢</b> <b>講師 岡野 千晴 他</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>周囲の世界を全身の感覚器官を通して感じ、心身ともに成長していく幼児期において、共に感動し、表現する保育者も、子供を育てる大切な環境です。保育者が幼児一人一人の自己表現を受容し、理解できる援助者であることは、幼児の豊かな感性を養うために重要となります。</p> <p>レポート課題では、子どもの身体的発達と幼児画の発達過程の特長について理解し、子ども一人一人の発達に応じた援助の必要性について学び、成長を見守れる保育者を目指します。また、美術表現技法と表現の理解を深め、子どもとの創作活動に役立つ様々な素材や表現方法の基礎知識を習得します。演習課題においては、色彩基礎演習の制作、感想文の記述を通して、色彩、絵の具の基礎知識と色作りを実体験から学び、幼児教育における造形表現の基礎技能の習得を目指します。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題の理解力（課題内容・条件を理解してレポート、作品制作に取り組む）</li> <li>・幼児画の発達に関するレポート課題や作品制作を通し、自己表現や成長について学び、自分の大切さを知ると同時に他者の表現や存在も尊重できる姿勢を育む。</li> <li>・身体的発達と、幼児画の発達過程の特徴について理解する。</li> <li>・基礎的美術表現技法と用語についてその特徴と表現を理解する。（課題2）</li> <li>・色彩学の基礎用語を理解する。（課題3）</li> <li>・絵具の選び方、使い方、色の特徴を理解し、色の作り方や色調表現を楽しみ、豊かにする。（課題3）</li> <li>・作品制作工程の記録、制作意図、感想文の記述を通し、作品鑑賞を行う。（課題3）</li> </ul>	
<b>【作品作成上のアドバイス】</b> <b>〈色彩演習課題〉</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品は、赤・黄・青・緑の4原色と白・黒のみで制作します。絵具セットに、同系色の色がある場合、次の色名の4原色を使用してください。但しメーカーによって色名が違う場合がありますので、大まかな目安とします。（あか、レモンいろ、あお、みどり）</li> <li>・安定した表現効果を得るために、安全性や品質の保証されたメーカーの絵具を使用する。（安価な絵具の中には、混色すると色が分離、変色するなど、混色の効果が得られない場合がある）</li> </ul>	
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信課題：課題1，2：レポート（幼児の造形表現の発達段階／美術表現技法）30%</li> <li>課題3：色彩基礎演習作品2点評価（感想文含む）70%</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト「図画工作」・「造形表現（指導法）」教科書・通信教育補助教材「レポート設題集」</li> <li>・花篤 實・岡田愨吾「新造形表現 理論・実践編（幼児教育法講座）」三晃書房 2009 2,000円（税別）</li> <li>・林建造「保育の中の造形表現」サクラクレパス出版 1992 3,200円（税別）</li> <li>・富山典子「絵画遊び技法百科」ひかりのくに 2001 2,800円（税別）</li> <li>・「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針」内閣府/文部科学省/厚生労働省 チャイルド本社 2017 500円（税別）</li> <li>・鳥居昭美「こどもの絵をダメにしませんか？」 大月書店 2004 1,500円（税別）</li> <li>・H・ガードナー「こどもの描画・なぐり描きから芸術まで」誠信書房 1996 4,200円（税別）</li> <li>・竹永亜矢・埴 和道・岡野千晴・川里智子「近畿大学九州短期大学研究紀要 第48号2018」近畿大学 2018</li> <li>・大井義雄・川崎英昭「カラーコーディネーター入門 色彩」日本色研事業 2007 1,500円（税別）</li> <li>・近江源太郎「色彩心理入門」日本色研事業 2004 1,900円（税別）</li> <li>・中田満雄・北島耀・細野尚志「デザインの色彩」日本色研事業 2003 1,100円（税別）</li> </ul>	



<b>科目名：幼児と言葉</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 皆川 晶</b> <b>講師 菅 舞香</b> <b>講師 村田 由美</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。</li> <li>・言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身につける。</li> <li>・児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身につける。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</li> <li>・子どもの発達における言葉の重要性について理解する。</li> <li>・自分の言葉を見つめなおし、言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにするよう心掛けてほしい。</li> </ul>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを熟読すること。</li> <li>・絵本や物語に多く触れること。</li> <li>・子どもの言葉の育ちについて深く考えること。</li> </ul>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを熟読すること。</li> <li>・領域「言葉」に関する知識を得ること。</li> </ul>	
<b>【成績評価方法】</b> 科目終末試験（50%）、レポート（50%）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：岡田明編『新保育内容シリーズ〈新訂〉子どもと言葉』萌文書林	

<b>科目名：幼児と人間関係</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 垂見 直樹</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ①幼児を取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを理解する。 ②子どものライフコースにおける人と関わる力の重要性を理解する。 ③子どもの自律性と集団のなかでの育ちについて理解し、支え合う仲間集団の条件を理解する。	
<b>【学習上の留意点】</b> 子どもが本来有している人と関わる能力について理解し、そうした能力を引き出すために必要な環境構成のあり方について検討することが求められます。また、子どもたちを取り巻く過程や地域などの現状を理解し、そうした社会背景による子どもたちへの影響を理解できるよう学習してください。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキストを中心に、子どもを取り巻く社会背景を理解し、子どもへの影響について検討すること。その際、独自に他の文献も調べ、情報収集することが望ましいです。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストを中心に、子どもの人と関わる能力の発達過程や、保護者や保育者をはじめとする周囲の大人の適切なかわりとは何かについて学習しておいてください。	
<b>【成績評価方法】</b> 科目終末試験50% レポート50%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：塚本美知子編著（2018）『対話的・深い学びの保育内容 人間関係』萌文書林 参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針（H29年告示）	

<b>科目名：幼児と環境</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 高木 義栄</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を理解する。「環境とかかわる力」の発達について理解する。領域「環境」の変遷についての学修を通して、子どもの育ちにとって大切にされているものを知る。自然環境や社会環境などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導できる。	
<b>【学習上の留意点】</b> 教科書および教育要領・保育指針の領域「環境」の部分を読み込み、ポイントとなる部分を整理して把握すること。その際、単なる暗記にならないように注意する。ポイントを自分なりにまとめたノートを作成するのもよい。それから関心を持った分野や重要な部分の知識・事例を、参考図書やインターネットなどで補充しておくこと。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> まず、教科書をよく読むとともに、教育要領・保育指針の領域「環境」のねらいと内容を把握しておくこと。それから設題に関係する所の知識や事例を、参考図書やインターネットなどで補充しておくこと。自身の体験を引き合いに出してもよい。教科書や参考図書、ウェブの丸写しが分かった場合、再提出もありえる。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> まず、教科書をよく読んで、各設題に該当する部分をまとめて自分なりの解答例を作成してみる。それから設題に関係する所の知識を、参考図書やインターネットなどで補充しておくこと。 解答の分量にも留意し、少なくとも用紙の半分までは書くこと。(数行で終わらないようにする)	
<b>【成績評価方法】</b> 科目終末試験 (50%)、レポート (50%)	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：柴崎正行・若月芳浩（編）『最新保育講座9 保育内容「環境」』ミネルヴァ書房、2009年 参考文献：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示） 田尻由美子・無藤隆（編）『保育内容 子どもと環境—基本と実践事例—』同文書院、2006年	

<b>科目名：社会福祉</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 鬼崎 信好</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<p><b>【教育目標及び到達目標】</b></p> <p>21世紀における本格的な人口の少子化・高齢化によって、わが国の経済社会状況は大きく変化し、社会福祉制度も時代に応じた変化が求められるようになってきました。従前ではややもすると「保護」という視点から社会福祉政策は展開されてきましたが、今日では「自立支援」に焦点をおいた社会福祉の取組みが求められるようになってきました。つまり、当事者の自立を実現するための社会福祉施策の展開（制度からのアプローチ）と具体的・個別的な実践（当事者に焦点を置いた個別的なアプローチ）の総合化が求められるようになってきました。このことは、児童福祉（子ども・家庭福祉）の分野でも同様です。</p> <p>保育・子育て支援に従事する保育士は保育所を含む児童福祉の現場で、保護者に対して相談・助言・情報提供等の役割を担うことになります。</p> <p>そこで、本科目では現代社会における社会福祉の全体像を理解するとともに、保護者の子育て支援の方法等を考えていきます。</p>	
<p><b>【学習上の留意点】</b></p> <p>多くの学生の皆さんは仕事を持ち、また家庭を持っていることでしょう。そのような状況の下で、通信教育で学ぶことは大変だと思いますが、自分なりの人生設計の実現のために頑張ってください。</p>	
<p><b>【レポート作成上のアドバイス】</b></p> <p>①自主学習をすることは多くの困難がありますが、まずは基本テキストをよく読んで課題を考えていきましょう。また、②新聞記事等で社会福祉関係のニュースが伝えられていますので、それらに可能な限り目を通していくようにしましょう。さらに、③今日ではインターネットなどの媒体によって、さまざまな情報も得ることができるようになりましたので、昔の先輩方よりも勉強し易くなっています。</p>	
<p><b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b></p> <p>終末試験の出題番号順に原則として出題をするようにしていますので、そのことを念頭に勉強をしてください。</p>	
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <p>レポート提出の場合は、丁寧な字で清書してください。試験の答案も丁寧な字で記し、字数もできるだけ多くしてください。また、他の文章等のまる写しはしてはいけません。</p>	
<p><b>【テキスト及び参考図書】</b></p> <p>テキスト：鬼崎信好編『コメディカルのための社会福祉（第4版）』講談社 2018年  参考文献：社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向2015』中央法規出版 2019年  社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法①』中央法規出版 2019年  社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法②』中央法規出版 2019年  鬼崎信好編『高齢者介護サービス論』中央法規出版 2014年  九州社会福祉研究会ほか編著『21世紀の現代社会福祉用語辞典（第2版）』学文社 2019年  ※上記の出版物は、各地の大きな書店や県庁の政府刊行物センターにございますので、比較的入手しやすくなっています。</p>	

<b>科目名：社会的養護Ⅰ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 渡邊 暁</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 社会的養護の意義・歴史の変遷の把握を基盤に、児童の人権擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状および課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達支援のあり方について考察する。	
<b>【学習上の留意点】</b> 新聞、テレビ等における社会的養護に関連することについて関心を持ち、考える習慣を身につけること。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 〈1冊目〉 テキストと参考文献等を熟読し、設問の意味をよく理解した上で、自らのことばで、自らの考えを織り込んで、推敲を重ねながら、レポートを作成すること。なお、引用する場合には、「 」でくり、どこから引用したのかわかるようにしておくこと。 〈2冊目〉 1冊目と同じように、テキストと参考文献等を熟読し、設問の意味をよく理解した上で、自らのことばで、自らの考えを織り込んで、推敲を重ねながら、レポートを作成すること。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストを何度もくり返し読み直すこと。 テキストの目次の項目ごとに、何がかかれてあったか要約を試みること。 添削されたレポートに再度目を通すこと。	
<b>【成績評価方法】</b> 設問に対し、論理的に文章が展開され、自らのことばで自らの考えを織り込みながら、適切に解答されているかをチェックする。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：相澤仁・林浩康編『社会的養護Ⅰ 新・基本保育シリーズ6』中央法規出版 2019年 参考文献：山縣文治・林浩康編『よくわかる社会的養護』ミネルヴァ書房 2013年 吉田眞理編著『児童の福祉を支える社会的養護 第3版』萌文書林 2016年 大竹智・山田利子編『保育と社会的養護原理』みらい 2013年 小池由佳・山縣文治編著『社会的養護（第4版）』ミネルヴァ書房 2016年	

<b>科目名：教職概論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：教授 三木 一司</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>教職概論は教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者には何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有することを目標としています。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>始めにテキストをよく熟読してください。重要だと思われる箇所やキーワード、また各章ごとに要点をまとめるなどして学習を進めます。関心をもった事例やレポートを作成する上でさらに学習が必要な箇所については、テキストに示されている参考文献で学習をして理解を深めてください。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>レポート設題集を見て、設題に関するテキストの関係箇所をさらに熟読し、参考文献などで学習してください。教職概論レポートは、教職や保育職に関する基礎的な内容を理解できているかどうかをみるものです。テキストや参考文献で学習した重要な箇所、キーワードなどを要約したりしながら、論理的に記述してください。テキストの内容を理解し、参考文献で学習した上で、設題に対する自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現してください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>科目終末試験問題集の出題を見て、テキストの関係箇所を学習してください。教職概論の終末試験は、教職及び保育職に関する基本的な内容を理解できているかどうかをみるものです。全ての問題について、テキストで学習した事項にそって解答できるようにしてください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート－各設題50点、2題の合計点が60点以上で合格</li> <li>・科目終末試験－各出題50点、2題の合計点が60点以上で合格</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：古橋和夫編『未来の教師に向けて〈改訂〉教職入門 改訂版』萌文書林 2018年  参考文献：テキストの各章ごとに示されている文献を参照してください。</p>	

<b>科目名：教育課程総論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：講師 大間 敏行</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ①教育課程の目的や意義に関して、基本的な理解が深められること。 ②幼児期の特性をふまえ、幼児教育課程のあり方に対する理解が深められること。 ③教育課程の編成及び指導計画の作成に対する理解が深められること。	
<b>【学習上の留意点】</b> 教育課程は、幼児が園で過ごす時間の全体をデザインするものであり、教育の目的や目標を表すものでもあります。学習の内容は多岐にわたりますが、他の科目と共通する知識も多くありますので、関心を持って学んでください。レポートや科目終末試験をクリアするためには、テキストをしっかりと読み込んで理解する作業が必要となります。テキストを読んで気になったところは、さらに他の文献にもあたって理解を深められるとよいでしょう。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> レポートはどちらの設題も、文献を読んでまとめるというだけの形式ではなく、自分自身の体験と照らし合わせたり、興味や関心に基づいて創意工夫したりといった要素が大きく存在します。そのため準備段階で文献から学習する際には、受け身の姿勢ではなく、積極的に知識を摂取し活用しようという姿勢が大切です。また、教育課程の考察には幅広い視野での配慮が必要となりますので、じっくりと内容を吟味しつつ取り組んでください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 各設問の解答に該当する内容は、テキストを読み込めば必ず見つかります。まずは、どの部分に書いてあるかを見つけ、その部分の内容を設問の主旨に沿って要約するという作業をやってみましょう。模範解答を自分で作成することは有効な対策ですが、模範解答の文章を丸暗記するのではなく、内容を自分でかみくだいて理解しておくことが必要です。	
<b>【成績評価方法】</b> ・レポート ・科目終末試験	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：岸井勇雄・横山文樹著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 2011年 参考文献：汐見稔幸・無藤隆監修『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房 2018年 民秋言他編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林 2017年	



<b>科目名：音楽（理論）</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：講師 江川 靖志</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>歌うにしても、ピアノを弾くにしても、まずは楽譜が読めなくては。  ここでは、楽譜が読めるようになるための基礎を学びます。内容は必要最低限のものとしています。  自分の力でレパートリーを増やし、保育・教育現場で良い音楽を演奏するためにも、ここで基礎をしっかりと身に付けましょう。  「難しいな」と思っているあなたも大丈夫。肩の力を抜いて始めましょう。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>自分自身の力で楽譜を読み解けるということは、表現のアイテムが増えることです。頑張りましょう！</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <b>設題①・設題②</b> 第1章、第2章、第3章…五線、音名、音符、休符、拍子 <b>設題③</b> 第4章、第5章、第6章…音程、音階 <b>設題④</b> 第7章、第8章…和音、標語・記号	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>子どもの歌やピアノの楽譜などを分析（何拍子か、何調か、など）することが、もっとも実践的でしょう。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>終末テストのみ。60点未満の場合は、合格するまで何度でも再挑戦できます。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「音楽（理論）」 「音楽（理論）」レポート設題集 楽譜に関しては多くの本が出版されています。自分に合った資料を見つけてみてください。	



<b>科目名：教育方法論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：講師 大間 敏行</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ①教育の方法に関する理論的知識を習得すること。 ②乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解し、説明できること。 ③②を踏まえ、保育現場における実践を構想できること。	
<b>【学習上の留意点】</b> 乳幼児期の教育（保育所・幼稚園・認定こども園）現場における教育の方法には、小学校以降のそれとは異なる特性があります。その基本原理をしっかりと知識として習得することが、まず必要です。その上で、乳幼児期の教育現場においてその知識を活かし、遊びを中心とした教育実践を構想することを意識してください。学習の過程で得た「知識」を、「実践」につなげるという意識をもって、知識の習得にとどまらない、実践力の向上を目指してほしいと思います。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> まずはテキストの該当箇所をしっかりと読み込み、内容の理解に努めてください。そのうえで、自分自身の幼年時の体験や保育の体験などをテキストの説明と重ね合わせ、実感を伴った理解へと深めていくことが大切です。体験と照らし合わせてテキストの説明に違和感があった場合は、それを記述するのもよいでしょう。余裕があれば、他の文献にも手を伸ばしてみてください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 科目終末試験では、テキストの内容をしっかりと学習し、理解できているかを重要視します。対策としては、テキストを熟読することはもちろん、内容を要約した模範解答を予め自分で作成してみるとよいでしょう。テキスト以外の文献からも情報を補うことができれば、より良い学習につながります。	
<b>【成績評価方法】</b> ・レポート ・科目終末試験	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：小田豊・青井倫子編著『幼児教育の方法』北大路書房 2009年 参考文献：佐藤学著『教育の方法』放送大学叢書 2010年 岩下修『AさせたいならBと言え—心を動かす言葉の原則—』明治図書 1989年	

<b>科目名：児童文化</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 井上 和子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 児童文化は、おとなが子ども達のために作ったり、子どもたち自身が作ったりしながら、遊びの中で子どもたちに、共有され、楽しまれ、仲間や次の世代へ伝えられていくものである。現在の学校教育偏重の子どもの生活の中で、学校教育にない重要な部分の学習の機会を得ることのできる児童文化の領域の存在意義はとて大きいといえる。 この児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握し、自分自身も様々な児童文化財に触れ、児童文化という分野の実践的な指導ができるようになることを目標とする。	
<b>【学習上の留意点】</b> 本学のテキストを熟読し、児童文化の歴史や現在の児童文化を取り巻く環境を学んで欲しいとともに、様々な児童文化財について、与え方や作り方などをしっかりと学習し、ノートにまとめていくと、科目終末試験対策にもなる上、保育の現場でも大いに役に立つことができるので、自分なりに工夫をして学習を進めていくこと。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 設題にきちんと対応したレポートであって欲しい。設題を良く読んで、遊びは重要であることをしっかりとアピールしたレポートにしてまとめること。 ※レポートは、独りよがりのものにならないように、遊びについてある程度調べた上でまとめることが望ましいので、必ず、参考文献を最後に記述すること。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストを十分に読み、設題に求められている内容をきちんとノートにまとめておくこと。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート、科目終末試験については、設題で何が求められているのかを理解し、その内容がうまくまとめられていることが、良い評価となる。科目終末試験については、本学のテキスト『児童文化』に則ってまとめられてあるかどうか、評価の基準である。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『児童文化』 参考文献：『新版児童文化』青木寛・楠田磬・小林美実・土橋美歩 学芸図書株式会社	

<b>科目名：図画工作Ⅱ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 竹永 亜矢</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 「図画工作Ⅱ」では、4原色による絵画や立体構成作品の制作工程、感想文の記述を通して、創造性や表現力、作品鑑賞を楽しく感性豊かに学び、保育者自身が制作を楽しむ姿勢と、造形あそびの表現技術の習得を目指します。 また、造形活動における安全な道具の扱い方、材料選び、素材の活用といった造形教育指導法を習得し、保育者として子供を援助し、より豊かな表現へと展開できる実践能力の向上を目指します。	
<b>【学習上の留意点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題内容・条件・材料選択を理解して制作に取り組む。</li> <li>・作品制作工程の記録、制作意図、感想文の記述を通し、作品と鑑賞の表現を行う。</li> <li>・絵具・のり・はさみなど基礎的な道具・材料の安全で有効な扱い方を学ぶ。</li> <li>・絵具の選び方、使い方、色の特徴を理解し、色彩表現を楽しみ、豊かにする。(4原色の絵)</li> <li>・国や地域に伝わる文化や表現を知り、身近な素材を活用し、自由な創作を楽しむ。(獅子頭制作)</li> </ul>	
<b>【作品作成上のアドバイス】</b> 〈4原色による風景画〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品は、赤・黄・青・緑の4原色のみで制作します。絵具セットに、同系色の色がある場合、次の色名の4原色を使用してください。但しメーカーによって色名が違う場合がありますので、大まかな目安とします。(あか、レモンいろ、あお、みどり)</li> <li>・安定した表現効果を得るために、安全性や品質の保証されたメーカーの絵具を使用する。(安価な絵具の中には、混色すると色が分離、変色するなど、混色の効果が得られない場合がある)</li> </ul> 〈段ボール(空き箱)による獅子頭(ししがしら)作り課題〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作する前に、獅子頭について調べ、その歴史や形の表現について知る。(レポート)</li> <li>・身近な素材を活用し、実際に使える獅子頭制作を目指す。</li> </ul>	
<b>【成績評価方法】</b> 作品評価 70% 制作意図・感想文 30%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「図画工作」教科書・通信教育補助教材「レポート設題集」</li> <li>・「平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針」文部科学省/厚生労働省 チャイルド本社 2017 400円(税別)</li> <li>・埴 和道・竹永亜矢 「近畿大学九州短期大学研究紀要 第48号2018」(えの具をもちいた心理的4原色による色あそび -援助者の色彩理解のために-) 近畿大学 2018</li> <li>・大井義雄・川崎英昭「カラーコーディネーター入門 色彩」日本色研事業 2007 1,500円(税別)</li> <li>・近江源太郎「色彩心理入門」日本色研事業 2004 1,900円(税別)</li> <li>・中田満雄・北畠耀・細野尚志「デザインの色彩」日本色研事業 2003 1,100円(税別)</li> <li>・花篤 實・岡田愨吾「新造形表現 理論・実践編(幼児教育法講座)」三晃書房 2009 2,000円(税別)</li> <li>・林建造「保育の中の造形表現」サクラクレパス出版 1992 3,200円(税別)</li> </ul>	

<b>科目名：教育相談（カウンセリング ・幼児の理解を含む）</b>	<b>開講学年：2 年次 単 位 数：2 単位</b>
<b>担当：教授 福留 留美 准教授 橋本 翼</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児理解の意義・方法について理解し、幼児理解と発達・学びとの関連性を理解する。</li> <li>・ 幼児理解を個と集団の視点から理解する。</li> <li>・ 幼児教育における教育相談の意義を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。</li> <li>・ カウンセリングマインドの必要性を理解し、カウンセリングの基礎的な態度・技法を理解する。</li> <li>・ 幼児の不適応や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解する。</li> <li>・ 保護者へのカウンセリングマインドを生かした子育て支援に関して理解する。</li> <li>・ 教育相談を勧めるための組織整備や多職種との連携に関して理解する。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>子どものこころの理解や子育て支援へのまなごしを持つためには、テキストを読んで理解するだけではなく、自らの日常生活での経験とつなげて能動的に学習することが求められる。</p> <p>子どもの問題（虐待、不登校、いじめ等）や子育て支援をめぐるニュースなどにも日頃から目を通しておき、「自分はどのように考えるか」常に考えていってほしい。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>レポート作成に当たり、次のような学習をしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①テキストを熟読すること。</li> <li>②分からないところは、各自参考文献を調べ、理解すること。</li> <li>③テキストの内容について、自分の経験を振り返って結びつけながら、理解を深めていくこと。</li> </ol> <p>※レポートはテキストを写すだけではなく、必ず自分の考えも入れてまとめてください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>科目終末試験は、「科目終末試験問題集」から出題します。事前にテキストをもとに学習しておいてください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポートに関しては、内容の首尾一貫性、設題に的確に答えているかという点と、説得力のある自分なりの考えを記述できているかを中心に評価します。</li> <li>・ 科目終末試験に関しては、設題の意図を的確に反映した回答をしているかどうかという点と、自分なりの考え、意見を記述できているかという点を中心に評価します。</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：『子育て支援カウンセリング～幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート～』石川洋子編集 図書文化 2008年</p> <p>参考文献：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（内閣府 文部科学省 厚生労働省）（H29年告示）</p>	

<b>科目名：子ども家庭支援論</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 渡邊 暁</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 社会の変化によって現在の家族がどのように変わってきているか。今まで地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取りまく社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考える。 現在の保育所が求められているのは、地域における子育てセンターとしての役割である。子育てを通し親や地域社会への援助の必要性とその方法を理解する。保育所の他にも、保健福祉センター、児童相談所、病院などの施設や機関、また子育てサークルなどの民間の団体が子育てを支援している。これらが社会のニーズにどのように対応しているか、その役割と機能を理解する。	
<b>【学習上の留意点】</b> 子育てのプロフェッショナルとして、子どもだけでなく親や親を取りまく様々な環境に働きかけるスキルと理論、物事を多角的に分析する力を身につけてほしい。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキストを熟読するとともに、新聞などのメディアを通じて、あるいは身のまわりを観察することで現実の社会状況を知るように努め、常に自分がどう考えどう対処するかをイメージしながらレポートをまとめる。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 参考文献や様々な資料に目を通しておくこと。 用語は正確に用いること。	
<b>【成績評価方法】</b> 設問に対し、論理的に文章が展開され、自らのことばで自らの考えを織り込みながら、適切に解答されているかをチェックする。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：橋本真紀編著『よくわかる家庭支援論 第2版』ミネルヴァ書房 2015年 参考文献：草野いづみ編著『みんなで考える家族・家庭支援論』同文書院 2013年 森田ゆり著『子どもと暴力ー子どもたちと語るために』岩波書店 2011年 岸井勇雄ほか監修 金田利子ほか編著『家族援助を問ひ直す』同文書院 2004年 日置真世著『日置真世のおいしい地域づくりのためのレシピ50』全国コミュニティライフサポートセンター 2009年 山田昌弘著『迷走する家族 戦後家族モデルの形成と解体』有斐閣 2005年	

<b>科目名：幼児体育Ⅱ</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 堀田 亮</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ・「今の時代を生きる子どもたち」に対する運動あそびのもつ教育的意義について説明できる。 ・各種の運動あそびを素材とした短期の指導計画を作成することができる。	
<b>【学習上の留意点】</b> テレビ、新聞・雑誌、インターネットにおいて子ども（特に、幼児期）の健康・体力、スポーツに関する情報に日常的に関心を向けておくこと。 子どもを対象とした子育て支援事業、スポーツ活動へボランティアとして積極的に参加することを通して、子どもの健康・体力に関わった現代的課題に対する理解を深めておくこと。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 幼稚園教育要領や保育所保育指針において、運動あそびは、「健康」領域のみならず、展開の仕方によって、他の4領域のねらいと内容も多く含んでいる総合的な活動として捉えられている。つまり、健康維持や体力づくりのみを期待するのではなく、運動あそびを通じて子どもがどのような経験、体験をしているのか、そしてそうした経験、体験を通してどんな力が身につけているのかを的確にとらえることが保育者には求められる。 例えば、長縄あそびをしている子どもたちは、上手に跳ぶために縄に入るタイミングをとったり、縄の回し方を工夫する中で時間や空間の概念を学習している。また、みんなで仲良く遊ぶためには、縄を回す順番や跳び方に関する約束事を話し合うこともあるだろう。このように、幼児期の運動あそびは、体力・運動能力の向上だけでなく、子どもたちの社会性や認識面、感性の発達に大きく貢献しているものと考えられる。保育や体育に対する考え方は、識者・論者によって個々の哲学や価値観を反映させたものとなっている。したがって、テキストだけでなく様々な文献を参考にしながら、レポート作成者なりの運動遊びに対する考え方を首尾一貫した形で述べるように努めてもらいたい。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 設題5～14は幼稚園や保育所における指導計画（本時案レベル）を作成する過程で考察できる。設題5～9については、そのあそびで子どもに経験させてあげたいこと、身につけさせてあげたいことやできるようにさせたいことを幼稚園教育要領・保育所保育指針の「ねらい」や「内容」を参考にしながらピックアップして考察するとよいだろう。さらに設題10～14については、子どものあそびを深化・発展させるために保育者がどのように援助・指導すればいいのかということについて、具体的な事例を挙げながら論述すればよいだろう。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート：①テキストおよび参考文献を通じた考察に関する記述内容（50%）、②レポート作成者なりの幼児期の運動あそびに対する考え方に関する記述内容（50%） 科目終末試験：①設題の理解度、②設題内容に関する論述内容、③「自らの考え方」「自らの体験」「具体的事例」の論述内容	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『幼児体育Ⅱ』 参考文献：厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館 学校体育研究同志会編『幼児期 運動あそびの進め方』創文企画 黒井信隆・山本秀人編『0～5歳児のたのしい運動あそび』いかだ社	



<b>科目名：言葉Ⅱ</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：講師 菅 舞香</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ①言葉（言語）の発達に関する理論を理解する。 ②言葉の発達における、子どもを取り巻く環境の影響について検討する。特に「コミュニケーション」に着目し、その理論を理解する。 ③保育所保育指針「領域言葉」を理解する。 ④子どもの言葉をはぐくむ保育者のかかわり方について検討し、理解を深める。	
<b>【学習上の留意点】</b> 言葉は人間が生きていくうえで重要なものであることはいうまでもありません。保育者としてどのように子どもの言葉の育ちを支えるか、理論的な知識に裏打ちされた実践力を養ってほしいと考えています。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> まず、テーマについて参考文献をもとに学習し、学習した内容を要約します。学習した内容について、皆さんの自分の考えが述べられていることが重要です。自分の体験・経験から汲み出したような、紋切型ではない「自分の言葉」が表現されていることが望ましいです。 また、テーマにもよりますが、「自分が保育者の立場なら、子どもにどのように関わるだろうか」という視点はとても重要です。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> しっかりと参考文献を学習しておいてください。	
<b>【成績評価方法】</b> ・試験（50%）、レポート（50%）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『領域「言葉」入門』 参考文献：文部科学省著『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 厚生労働省著『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2018年	

<b>科目名：健康Ⅱ</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 山田 大介</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 乳幼児期は生涯にわたる心身の健康の基礎を培う重要な時期である。保育者は、健康・安全の知識を自らが持つだけでなく、適切な環境をつくり子どもたちにもわかりやすく伝えていくことが重要である。 子どもの「こころ」と「からだ」の健康について必要な知識とその指導、援助の技術・技能獲得を目標とする。	
<b>【学習上の留意点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容ごとに視聴覚と体験に訴えること、学習形態に変化を付けることを重視する。</li> <li>・教師からの一方通行の講義ではなく、学生同士の学び合いを含めた三者通行で展開する。</li> </ul>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における幼児期の運動遊びについて、その課題や問題点、時代による遊びの変化について考察できているかどうか。</li> <li>・運動遊びについて「からだ」や「こころ」に及ぼす具体的な影響と重要性について述べられているかどうか。</li> <li>・運動遊びの意義を理解し、具体的な運動指針が説明できるかどうか。</li> </ul>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の定義を理解した上で、その本質的な意味から、各出題について、考察できているかどうか。</li> <li>・参考文献を丸写しせず、自分の考えと区別して記載する。</li> <li>・各設題と幼児期の健康についての関連性を記載する。</li> </ul>	
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各設題について参考文献や現状から、自分の考えを考察できるかどうか。</li> <li>・課題を理解し、論文の構成や文章の要約、明確性、誤字、脱字などが正しくレポートできているかどうか。</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『健康 理論編』保育出版社 参考文献：文部科学省厚生労働省編 幼稚園教育要項 保育所保育指針 チャイルド社 柴崎正行編 保育内容「健康」ミネルヴァ書房 近藤光夫・船川幡夫著 心身の健康に関する領域「健康」東京書籍	



<b>科目名：乳幼児心理学</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：講師 宮本 純子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>乳幼児心理学では、子どもたちがどのようにこの世界を理解しようとしているのか、またその理解の仕方の変化や発達について学びます。子どもとおとなの視点の違いを知り、子どものありのままの姿を受け止めて、子どもを丸ごと理解する能力を養うことを目指します。</p> <p>乳幼児の発達の基礎的な知識を理解し、保育者としての適切な子どもへの関わり方を習得することを目標とします。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>テキストを熟読し、内容を十分に理解してください。そのためには、キーワードを読み取り項目ごとに要点をまとめるなどの根気のいる学習が必要です。ときには、保育現場で出会う子どもたちの姿を思い出して、テキストなどで得た知識と比べてみましょう。理解につながることもあれば、新たな疑問が起きることもあるでしょうが、知識と実践をリンクさせながら進める学習は、乳幼児の理解をより深めることになるでしょう。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>レポートの設題を的確に理解、把握してください。その上で、設題に関連する箇所を熟読し、さらに参考文献などで学習を深めてください。記述するにあたっては、論旨を明確にしてキーワードなどを整理しつつ論を展開してください。保育者の子どもへの対応を記述する場合には、具体的にまとめてください。</p> <p>また、文体を統一する、内容を明確にするために段落で区切る、誤字や脱字に注意するなど文章を作成する上での基本的な約束事もしっかり守りましょう。</p> <p>参考文献や引用文献も明らかにしてください。</p> <p>テキストや参考文献を学習した上で、自分の考えをまとめ、自分のことばでレポートを書いてください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>科目終末試験問題集の出題を見て、出題の意図、問われていることは何かを理解してください。そして、テキストの関係箇所や参考文献などを学習してください。テキストの内容を理解することは勿論ですが、参考文献なども読んで理解を深めてください。</p> <p>キーワードの理解はとくに重要です。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポート：60点以上で合格。</p> <p>科目終末試験：60点以上で合格。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：「乳幼児心理学」</p> <p>参考文献：桜井茂男編「はじめて学ぶ乳幼児の心理」有斐閣 2006年  岡本依子ほか著「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」新曜社 2004年</p>	

<b>科目名：子どもの食と栄養</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 秋武 由子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ・小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解する。	
<b>【学習上の留意点】</b> 保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、栄養法を理解し、各時期の特性や、小児を取り巻く食の問題、集団給食等についても理解すること。 具体的には、 ・栄養の基礎概念と栄養素の種類・機能や、日本人の食事摂取基準など基礎知識を身に付けること。 ・妊娠・授乳期から、乳児期、幼児期、学童期、思春期までのそれぞれの心身の発達と食生活について理解を深めること。 ・小児の疾病と食生活、食事療法が必要な小児への対応、障害がある小児の食生活などについてもまとめておくこと。 ・保育所等施設の形態や特徴を知り、より良い集団給食のあり方について考えること。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 小児期の栄養と食生活が、生涯にわたり健康や生活に深くかかわっていくことを、レポート作成者の意見も含めてまとめること。また、この課題は「栄養」と「食生活」という2つの柱よりなっています。それぞれについて必ず考察すること。 テキストには必ず目を通し、参考文献も何冊か読んでおくこと。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキスト及び参考文献をよく読み、学習上の留意点をまとめた上で、個々の出題に対する回答を作成すること。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート提出、科目終末試験の結果に基づいて評価する。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：二見大介・高野陽編『新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養』北大路書房 2011年 参考文献：上田玲子編『新版 子どもの食生活』ななみ書房 2013年 藤沢良知著『子どもの心と体を育てる食事学』第一出版 2006年 小野有紀『授乳・離乳の支援ガイドにそった離乳食』芽ばえ社 2010年 堤ちはる・藤澤由美子『子どもの食と栄養』中央法規出版 2019年	

<b>科目名：幼児への特別な支援</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 福留 留美</b> <b>准教授 橋本 翼</b> <b>非常勤講師 勝浦 真仁</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育を含む特別支援教育に関する理念や制度の仕組みを理解する。</li> <li>・特別の支援を必要とする幼児（知的障害、発達障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害等）の心身の発達と心理的特性および学習の過程を理解する。</li> <li>・特別の支援を必要とする幼児への支援の方法について例示することができる。</li> <li>・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について理解する。</li> <li>・関係機関・家庭と連携して支援体制を構築することの必要性を理解する。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストだけでなく、さまざまな文献を読み、特別支援教育に関する理解を深めておくこと。</li> <li>・ニュースやテレビ番組などで取り上げられる、障がいや障がい児への支援に関する最新情報などを積極的に活用すること。</li> </ul>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>レポート作成に当たっては、以下のような学習をしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①テキストおよび参考図書を熟読すること。</li> <li>②分からない所は、テキストに記載している参考文献を参照し、理解を深めること。</li> <li>③テキストのみを文献とするのではなく、他の文献に書かれている内容と比較検討して、レポートに記載する内容を決めていくこと。</li> <li>④インターネットの情報からの引用は、内容の信頼性を吟味した上で行うこと。</li> </ol>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>科目終末試験は、「科目終末試験問題集」から出題します。事前にテキスト、参考文献をもとに回答をまとめておくこと。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートに関しては、内容の首尾一貫性、設題に的確に回答しているかという点と、説得力のある自分なりの考えを記述できているかをもとに評価します。</li> <li>・科目終末試験に関しては、設題の意図に沿った回答をしているかという点と、説得力のある自分なりの考えを記述できているかをもとに評価します。</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：よくわかる障害児保育（尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ミネルヴァ書房）  参考文献：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（H29年告示）</p>	

<b>科目名：子ども家庭福祉</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：教授 大津 泰子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭福祉の課題について総括的に考察できる力を養う。</li> <li>・保育者として子どもの最善の利益をはかるための基礎的な知識を習得する。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>子ども家庭福祉は、子どもと家庭に関する幅広い内容を学習します。まず、テキスト全体に目を通して、「子ども家庭福祉」の概要を理解してください。それによって他の教科で学習した内容と関連があることも理解できると思います。「子ども家庭福祉」独自の教科としてではなく、他の教科と関連づけて学習していく事で、理解力も高まると思われます。また、新聞やTVで報道される子どもや家庭に関する事柄について関心に向け、今日的な課題について理解を深めてください。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>レポート作成時は、設題（テーマ）とよく向き合いその意図をとらえ、自分自身の考えや言葉で書き表すことに努めてください。テキストや参考文献等をそのまま写されているレポートが多く見られます。また、テキストの一部分だけを読みレポートにまとめるのではなく、まずテキスト全体に目を通して、子ども家庭福祉の全体像を捉えることが大切です。要領よくまとめることがレポートではありません。専門職を志す学生として、現在の子どものや家庭の問題について真剣にとらえる気持ちで書き表してください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>「科目終末試験問題集」の中から出題します。幅広い内容になりますが、テキストだけでなく、参考文献等も活用して体系的に内容の整理を自分なりに努めて行うよう望みます。  また、回答はできるだけ具体的に説明できるように努めてください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポート提出、科目終末試験の結果にもとづいて評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：大津泰子著『児童家庭福祉 第3版』ミネルヴァ書房 2018年  参考文献：櫻井奈津子編『学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会 保育と児童家庭福祉』みらい 2017年  福田公教・山縣文治編『新・プリマーズ 児童家庭福祉』ミネルヴァ書房 2015年  日本子どもを守る会編『子ども白書』各刊年  *これらの図書はほんの一部です。関心があれば各自の地元にある図書館・書店で児童・保育・教育などのコーナーに行き調べれば参考文献を見つけることができます。</p>	

<b>科目名：保育原理</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 三木 やよい</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法の基本、保育の思想と歴史の変遷について、基本的な内容を理解する。また、保育の現状と課題について考察する。これらを通して、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識をもつことを目標とする。	
<b>【学習上の留意点】</b> テキストを通読しましょう。重要だと思われる部分にラインを引いたり、章ごとに要点をまとめるなどして学習を進めます。関心をもった事柄などについては、テキスト巻末の参考文献などにあたりさらに理解を深めるとよいでしょう。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 「レポート設題集」の設題を見て、テキストの関係箇所を熟読します。 保育原理のレポートの設題は、保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法の基本、保育の思想と歴史の変遷、保育の現状と課題について、基本的な内容を理解できているかどうかをみるものとなっています。 テキストに書かれていた主要な概念を使ったり、テキストの内容を要約したりしながら、論理的に述べるのが大切です。テキストの内容を理解した上で、自分の考えを述べることであればなおよいでしょう。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 「科目終末試験問題集」の出題を見て、テキストの関係箇所を熟読します。 保育原理の終末試験では、保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法の基本、保育の思想と歴史の変遷、保育の現状と課題について、基本的な内容を理解できているかどうかをみています。 全ての問題について、テキストの記述を用いながら解答できるようにしておきましょう。	
<b>【成績評価方法】</b> レポートは、各設題50点、2題の合計点が60点以上で合格です。 科目終末試験は、各出題50点、2題の合計点が60点以上で合格です。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「保育原理」田代勢津子 参考図書については、テキストの〈参考・引用文献〉のページを参照してください。	

<b>科目名：子どもの保健</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 池田 あずみ</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの保健の意義がわかり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題について説明できる。</li> <li>・子どもの心身の正常な発音及び、発達段階各期の特徴を述べることができる。</li> <li>・子どもの保健行政について述べるができる。</li> <li>・子どもにおこりやすい疾病や事故について述べ、その予防と対策を説明できる。</li> <li>・保育者としての役割を述べるができる。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>子どもを取り巻く環境は時代とともに大きく変化し、課題もさまざまです。子どもが心身ともに健全に発育するために、大人はどうであればよいのか考えていきたいと思います。</p> <p>日ごろから新聞やインターネット等で子どもの健康に関する情報を収集しておいてください。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>設題をよく読みその意味を理解してください。まずテキストをよく読み、次に参考文献やインターネット等で十分な資料の収集をしてください。すべてよく読んだうえで自分の考えを自分の言葉で表現してください。</p> <p>相手に論旨が明確に伝わるように「起承転結」に心がけて書いてください。書いた文章は少し時間をおいて必ず読み返してください。時間をおいて読むと間違い部分がよくわかります。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>テキスト、参考文献をよく読んで学習してください。医学用語が多く、理解しにくい内容もあると思いますが、まず用語の意味を理解するように努力してください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポートと試験に基づいて評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：竹内義博・大矢紀昭編『よくわかる子どもの保健 第3版』ミネルヴァ書房 2012年  参考文献：西村昂三編著『わかりやすい子どもの保健』同文書院 2012年  岸井勇雄ほか監修『子どもの保健 理論と実際』同文書院 2012年  佐藤益子編著『子どもの保健I』ななみ書房 2011年</p>	



<b>科目名：保育の心理学</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：講師 神近 裕樹</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>保育者として乳幼児期の子どもを理解するためには、「生涯発達」の視点は重要です。保育者として関わることになる子どもたちの精神発達の原理や道筋を理解して、子どもたちのその後の発達像を思い描くことで、「今」の子どもたちの発達にとって必要な援助が明らかになるでしょう。</p> <p>発達の基本的知識や子どもの発達の特徴を学び、保育者として重要な「見通し」をもった発達の支援が実践できるようになることを目標とします。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>テキストを熟読し、内容を十分に理解してください。そのためには、キーワードを読み取り項目ごとに要点をまとめるなどの根気のいる学習が必要です。ときには、保育現場で出会う子どもたちのその後の姿を思い描きながら「見通し」をもった発達の援助を考えてみましょう。テキストや参考文献で学んだ知識を、いつも子どもたちの姿にダブらせることで、より深い理解を得ることができるでしょう。</p> <p>保育現場などで子どもをしっかりと観察をして、テキストや参考文献の学習を進めてください。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>レポートの設題を的確に理解、把握してください。その上で、設題に関連する箇所を熟読し、さらに参考文献などで学習を進めてください。記述するにあたっては、論旨を明確にしてキーワードなどを整理しつつ論を展開してください。</p> <p>まずは、テキストを熟読しテキストの内容をしっかりと理解して、内容を要約して記述し、参考文献などで内容を膨らませていきましょう。テキストの文章をそのまま写してはいけません。</p> <p>また、文体を統一する、内容を明確にするために段落で区切る、誤字や脱字に注意するなど文章を作成する上での基本的な約束事もしっかりと守りましょう。</p> <p>参考文献や引用文献も明らかにしてください。記載がない場合は不合格とさせていただきますので注意してください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>科目終末試験問題集の出題を見て、出題の意図、問われていることは何かを理解してください。そして、テキストの関係箇所や参考文献などを学習してください。テキストの内容を理解することは勿論ですが、参考文献なども読んで理解を深めてください。</p> <p>キーワードの理解はとくに重要です。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポート：60点以上で合格。  科目終末試験：60点以上で合格。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：「発達心理学」、伊藤健次編集「保育に生かす教育心理学」みらい 2008年  参考文献：宮原英種・宮原和子著「愛情だけでは子どもは育たない」くもん出版 1992年  J. M・ハント著「子どもの知能はどのように育つか」新曜社 1990年  相良順子・村田カズ・大熊光穂ら著「保育の心理学〔第3版〕子どもたちの輝く未来のために」ナカニシヤ出版 2018年  児童育成協会（監修）杉村伸一郎・山名裕子編集「保育の心理学」中央法規出版 2019年</p>	

<b>科目名：青年心理学</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 橋本 翼</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 1. 青年期の発達課題について学び、誕生から青年期に至るまでの発達の連続性を見通して保育を行うことができるための知識を獲得する。 2. 青年心理学を学ぶことを通じて自己理解を深めることで、対人援助職である保育の専門家としての資質を向上させる。	
<b>【学習上の留意点】</b> ・テキストをしっかりと読み込み、分からない点は参考文献を参照するなど積極的に学ぶ姿勢を大切にすること。 ・青年期に特有の問題行動や社会問題に関して、日頃から新聞やテレビのニュースを通じて把握し、現象の背景にある青年の心理について自分なりに考えておくこと。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> ・引用文献および参考文献がある場合は、レポートの最後に必ず記載すること。 インターネットからの文献の引用は、信頼性を吟味したうえで記載すること。 ・教科書をそのまま写すのではなく、自分なりに考えをまとめて作成すること。その際、文章の論旨を明確に記述するよう心がけること。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> ・テキストにしっかりと目を通しておくこと。自分なりにノートにまとめたり、分からない点は参考文献や他の文献を参照したりして、知識を整理しておくこと。 ・持ち込みは許可しない。 ・教科書の文章をそのまま書くのではなく、自分なりの言葉で書くこと。出題によっては自らの経験から得られた知見を記載することも有効であるが、結論が主観的なものにならないよう配慮すること。	
<b>【成績評価方法】</b> ・科目終末試験の成績で評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：白井利明編『よくわかる青年心理学第2版』ミネルヴァ書房 2015年 参考文献：宮下一博監修 松島公望・橋本広信編『ようこそ！青年心理学』ナカニシヤ出版 2009年	



<b>科目名：子ども家庭支援の心理学</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：講師 神近 裕樹</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題について理解する。</li> <li>・家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</li> <li>・子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。</li> <li>・子どもの精神保健とその課題について理解する。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>テキストを熟読し、キーワードをもとに内容を十分に理解するよう努めてください。現代における社会的な状況を理解した上でどのような家庭支援を行えると良いか、普段から意識しておくことが大事です。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>レポートの設題を的確に理解、把握してください。作成にあたっては論旨を明確にして、読み手に何を伝えたいか整理しつつ論を展開してください。</p> <p>まずはテキストを熟読した上でキーワードを中心に内容を要約し、必要に応じて参考文献などで内容を膨らませていきましょう。また、文体を統一する、段落を区切る、誤字・脱字のチェックといった基本的な約束事にも注意してください。</p> <p>参考文献や引用文献も明らかにしてください。記載がない場合は不合格とさせていただきますので注意してください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>科目終末試験問題集の主題を見て、出題の意図、問われていることは何かを理解してください。そして、問題に関係するテキストの箇所や参考文献などを学習してください。特にキーワードの理解は重要です。レポート作成と同様にキーワード中心に要約したり、自分の中で内容を整理しておくといいでしょう。</p> <p>別の出題問題について回答した場合、内容に関わらず不合格となりますので注意してください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポート、科目終末試験ともに60点以上で合格となります。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：児童育成協会（監修）白川佳子・福丸由佳編集「子ども家庭支援の心理学」中央法規出版 2019年</p> <p>参考文献：柏女霊峰ほか編著「保育相談支援」ミネルヴァ書房 2011年  相良順子・村田カズ・大熊光穂ら著「保育の心理学【第3版】子ども達の輝く未来のために」ナカニシヤ出版 2018年  児童育成協会（監修）西村重稀ほか編集「保育相談支援」中央法規出版 2015年</p>	

<b>科目名：多文化共生保育</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 金 俊華</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ①文化の定義を理解し、異文化理解の基本的考え方を習得する。 ②異文化を相対的に理解することの意義を理解する。 ③幼児教育現場における多文化共生の実践は、幼児・保護者・保育者のみならず、地域社会との連携を通して可能であり、そのためには異文化間の対話が必要であることを理解する。	
<b>【学習上の留意点】</b> ①文化の定義、文化相対主義、グローバリズムなど異文化理解に必要な基本的な概念を理解する。 ②外国の文化や考え方について幼児期から親しみをもつための工夫や環境構成について学習する。 ③日本文化を子どもたちに理解してもらうための知識や方法について学習する。 ④3法令（幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領）にみられる多文化共生関連部分を理解する。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 新聞、テレビ、文献などを通して得られる様々な情報を「多文化共生の視点」で自分なりに分析・理解できる知見を獲得しておく必要がある。その観点で、設題を理解し論述することが望ましい。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 多文化共生保育の必要性と意義について理解し、異文化理解の諸概念（文化の定義、文化相対主義など）について学習しておくことが重要である。	
<b>【成績評価方法】</b> ・科目終末試験50%、レポート50%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：咲間まりこ編『多文化保育・教育論』みらい 2014年 1,800円（税別） 参考文献：『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』チャイルド社 500円（税別）	

<b>科目名：乳児保育Ⅰ</b>	<b>開講学年：専攻科</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：講師 坂口 美由紀</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 子どものあるがままの姿を理解し保育できるように、子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につけます。また、子育てを担う保護者を支援する保育者としての役割を自覚し、支援を行う上で必要な知識や技能を習得することを目標とします。	
<b>【学習上の留意点】</b> テキストを熟読してください。重要と思われる箇所の要点をまとめ、キーワードを理解します。また、テキストなどで知識や技術を学びつつ、実習で関わった子どもたちの姿を思いだし、自分の保育を振り返りましょう。保育の実践とテキストなどで得る知識や技術をリンクさせることで、乳児保育の理解を確かなものにする事ができるでしょう。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> レポートの設題を的確に理解し、把握してください。その上で、設題に関連する箇所を熟読し、さらに参考文献などで学習を深めてください。記述するにあたっては、論旨を明確にしてキーワードなどを整理しつつ論を展開してください。 また、文体を統一する、内容を明確にするために段落で区切る、誤字や脱字に注意するなど文章を作成する上での基本的な約束事もしっかり守りましょう。 参考文献や引用文献も明らかにしてください。 テキストや参考文献を学習した上で、自分の考えをまとめ、自分のことばでレポートを書いてください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 科目終末試験問題集の出題を見て、出題の意図、問われていることは何かを理解してください。そして、テキストの関係箇所や参考文献などを学習してください。テキストの内容を理解することは勿論ですが、参考文献なども読んで理解を深めてください。 キーワードの理解はとくに重要です。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート：60点以上で合格。 科目終末試験：60点以上で合格。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：志村聡子編著『はじめて学ぶ乳児保育 改訂版』同文書院 2018年 参考文献：松本園子編著「乳児の生活と保育」ななみ書房 2011年 汐見稔幸監修「保育所保育指針ハンドブック」学研プラス 2017年 厚生労働省児童家庭局編「保育所保育指針」各社 厚生労働省編「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館 2018年	

# 面接授業科目



科目名：生涯スポーツ	開講学年：1年次 単位数：1単位
担当：准教授 堀田 亮	履修区分：共通教育科目
<b>【到達目標】</b> ・幼児期および青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解することができる。 ・子どもや障がい者を対象とした運動・スポーツ活動に関する基礎的な技能を習得する。 ・子どもや障がい者や高齢者を対象とした運動・スポーツ活動のレパートリーを増やすことができる。	
<b>【講義内容】</b> 各種スポーツ（バレーボール、バドミントンなど）の技能の向上を中核目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的、風土的、社会的背景についての理解を深めたい。さらに、「生涯スポーツ」や「Sports for all」の理念を推進していく上での課題を、現代のスポーツ現象（勝利至上主義、商業主義など）を批判的に検討する中で明らかにしていきたい。 また、中核目標である「できる」ことにくわえ、「わかる」ことや「みんながうまくなること」を共通目標に設定し、グループ学習における集团的・組織的活動を重視しながら、「計画の立案－実践－総括－再計画」（保育者として指導計画を作成する際に必要な実践的な思考サイクル）を身につけてもらいたい。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ・地域における様々なスポーツイベントに自主的に参加したり、子どもや障がい者を対象としたスポーツ活動へボランティアとして参加することを通して、地域社会におけるスポーツ活動の現状に対する理解を深めること。 ・授業で体験した運動あそび、レクリエーションゲームを自分なりに工夫して、発展させること。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1 日目 &gt;</b>	
1 時限目	オリエンテーション、アイスブレイキングゲーム
2 時限目	コミュニケーションゲーム
3 時限目	子どもを対象とした運動あそび①（ボール）
4 時限目	子どもを対象とした運動あそび②（フラフープ、パラバルーン）
5 時限目	高齢者や障がい者を対象とした運動・スポーツ（ポッチャ、風船バレー）
<b>&lt; 2 日目 &gt;</b>	
1 時限目	バレーボール①（練習と試しのゲーム）
2 時限目	バレーボール②（ルール作り）
3 時限目	卓球とバドミントン（練習と試しのゲーム）
4 時限目	リーグ戦①（卓球）
5 時限目	リーグ戦②（バドミントン）
<b>&lt; 3 日目 &gt;</b>	
1 時限目	幼児期および青年期以降における運動あそび、スポーツの意義と課題
2 時限目	運動あそび、スポーツの指導案作成①（幼児期）
3 時限目	運動あそび、スポーツの指導案作成②（青年期）
4 時限目	運動あそび、スポーツの実践
5 時限目	全体のまとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
毎日のまとめの感想文（35%） 実技中のグループワークへの取り組み（30%） まとめの課題レポート（35%）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
配本テキスト 参考文献：玉木正之著「スポーツとは何か」講談社 酒井青樹・峯岸純子著「スロースポーツに夢中！」岩波書店 永井洋一著「少年スポーツ ダメな大人が子供をつぶす！」朝日新書 伊藤数子著「ようこそ、障害者スポーツへ」廣済堂出版	

<b>科目名：情報処理入門Ⅰ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 現在では、業種・職種を問わずほとんどの職場においてパソコンの利用スキルが求められる。本授業では、特に利用頻度の高い事務系ソフトの基礎的な利活用方法を、演習を通して習得することを目標とする。	
<b>【講義内容】</b> 代表的なオフィススイートである、Word（ワープロ）・Excel（表計算）・PowerPoint（プレゼンテーション）の3つのソフトウェアの概念や利活用方法を概観し、演習を通して理解の定着を図る。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 受講前に、Windowsの基本操作（日本語入力、マウスやキーボードの操作、ファイルのコピー・移動等）を一通り習得していることが望ましい。受講後は、家庭や職場等のパソコンに積極的に触れ、パソコンによる文書作成の機会を増やすことを勧める。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	Wordの基本操作、文字の入力、フォント設定
<b>2 時限目</b>	段落の設定、ページレイアウトの設定、印刷
<b>3 時限目</b>	画像（写真、クリップアート、ワードアート）の取り込みと編集
<b>4 時限目</b>	図形描画機能の利用
<b>5 時限目</b>	Word総合演習（チラシの作成）
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	Excelの基本操作、文字・セル・罫線の設定
<b>2 時限目</b>	計算式の入力、基礎的な関数、Excel総合演習（家計簿の作成）
<b>3 時限目</b>	PowerPointの基本操作、デザインの設定、スライドショーの利用
<b>4 時限目</b>	アニメーションの作成
<b>5 時限目</b>	PowerPoint総合演習（電子紙芝居の作成）
<b>【成績評価方法】</b>	
総合演習70%、授業参加態度30%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
特に指定しないが、必要に応じてWord・Excel・PowerPointに関する市販の参考書を参照することを勧める。	



<b>科目名：英会話 I</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 松原 留美</b> <b>非常勤講師 フィリップス・グレゴリー</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な自己紹介を自分で書く・話す事ができる</li> <li>・日常生活において使用される単語や表現を理解する</li> <li>・基本的な英文法を理解し問題を解く事ができる</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> <p>身の回りの出来事を題材にした英語表現を学び、それを基にインフォメーションギャップやグループワークで実際に話したり書いたりする練習を行っていく。また、英語を使ったゲームや歌等のアクティビティを行い、楽しく英語を学ぶ。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <p>授業の始めに、簡単な口頭での自己紹介をしてもらいます。</p>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	Introduction
<b>2時限目</b>	Family
<b>3時限目</b>	Music & Games
<b>4時限目</b>	Foods
<b>5時限目</b>	Shopping & Consolidation
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	Introduction 2
<b>2時限目</b>	Hobbies
<b>3時限目</b>	Music 2
<b>4時限目</b>	Writing
<b>5時限目</b>	Test
<b>【成績評価方法】</b>	
<p>授業への積極的態度（50%）、授業内テスト（50%）</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<p>講師作成の資料を配布する。</p>	

<b>科目名：国語表現法</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 皆川 晶</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ・言葉や基本的な文章表現を理解する。 ・文章の構造を意識しながら読むことができる。	
<b>【講義内容】</b> テキストを基にして、文章の理解を深めるために、文章の構成を見ながら読み解いていく。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> テキストを読んでおくこと。日頃から新聞・書物に親しみ、多様な表現方法に接してほしい。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	文章とは
<b>2時限目</b>	文章を書くときの基礎知識
<b>3時限目</b>	自分をみつめる文章
<b>4時限目</b>	意見文
<b>5時限目</b>	問題提起文
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	説明文
<b>2時限目</b>	説得力のある文章
<b>3時限目</b>	文章の理解・要約
<b>4時限目</b>	文章の要約
<b>5時限目</b>	文章表現についての総括
<b>【成績評価方法】</b>	
・1日目の課題 45% ・2日目の課題 45% ・授業への参加態度 10%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：石黒圭著『よくわかる 文章表現の技術Ⅱ－文章構成編－〔新版〕』明治書院 2009年	

<b>科目名：幼児と音楽表現</b>				<b>開講学年：1年次</b>	
<b>担当：教授</b> 久世 安俊 講師 江川 靖志 講師 上田 浩平 講師 合田 弥生 講師 中島 美保 講師 中村 寛子 非常勤講師 井上 幸一				<b>単位数：1単位</b>	
<b>履修区分：専門教育科目</b>					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「声」についてのイメージを深め、発声法、表現法を習得する。</li> <li>・器楽（ピアノ伴奏）の基礎的な演奏法を理解し、演奏技術の向上を目指す。</li> <li>・基礎的な楽典を理解し読譜ができる。</li> <li>・教育現場に必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やし、歌い示すことができる。</li> </ul>					
<b>【講義内容】</b>					
<p>子どもの歌やコールユーブンゲンを歌うことでレパートリーを増やし音程の感覚を養う。楽典を解説し読譜練習や作品解釈を行う。ピアノは記録票に従いバイエル、マーチ等を学生の力量に合わせた個人レッスンの形態で行い、音楽表現の向上と表現方法についても検討する。</p>					
<b>【事前学習及び事後学習】</b>					
<p>歌唱、ピアノともに練習あるのみです。特にピアノで初見状態でのレッスンは成立しないので、課題への取り組み、授業後の復習は最低でも60分は楽譜を見て練習を毎日続けていくことが望ましい。焦ることなく、丁寧に取り組むこと。</p> <p>*受講条件として、記録票：ピアノの部分はすべて個人レッスンを受け指導者の押印があることとする。個人レッスンについては、専門家または保育者の指導を必ず受けること。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>					
<b>1時限目</b>	発声のメカニズムと発声法／ピアノ基礎練習				
<b>2時限目</b>	譜表と音名・音符と休符 コールユーブンゲン：1・2・3／5 指の練習				
<b>3時限目</b>	拍子とリズム コールユーブンゲン：4・5・6／ハ長調（音階・バイエル）				
<b>4時限目</b>	音程 コールユーブンゲン：9・10／ハ長調（マーチ1～3・子どもの歌）				
<b>5時限目</b>	コールユーブンゲン：11・12 コンコーネ：1／ト長調・ハ長調・ニ長調（音階・コード表）				
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>					
<b>1時限目</b>	長音階 コールユーブンゲン：13・14ab／マーチ5～8				
<b>2時限目</b>	15ab コンコーネ：2／子どもの歌				
<b>3時限目</b>	子どもの歌：32・40（表現技術より）2・23・25／バイエル30～36				
<b>4時限目</b>	子どもの歌：13・15・16・33・41／マーチ9～10				
<b>5時限目</b>	実技試験				
<b>【成績評価方法】</b>					
実技試験（80％） 授業への積極的参加・質問（20％）					
<b>【テキスト及び参考図書】</b>					
テキスト：「音楽〈声楽教本〉」「音楽〈ピアノ教本〉」 参考資料：授業中に適宜資料を配布する。					

<b>科目名：造形表現（指導法）</b>	<b>開講学年：1年次</b>
<b>担当：准教授 竹永 亜矢 他</b> <b>講師 岡野 千晴</b>	<b>単位数：1単位</b> <b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 幼稚園教育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「表現」のねらい及び内容について背景となる造形表現と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。	
<b>【講義内容】</b> ・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、表現領域のねらい及び内容を理論と実践を通して理解する。 ・造形表現の技法、身近な素材から教材への応用など、常に他分野と共存する幼児の生活を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法と、造形表現の基礎教養を各課題と体験、資料配布と定期試験を行う事で教授する。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ・スクーリングで使用する教材、道具の準備をきちんと行う。 ※指定している持参材料・道具は、指定されたものを必ず持参する事。 ・授業で制作した作品は、実習や保育現場での参考になる為、作品を大切に保管し、制作方法と感想や作品写真で記録する。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	幼稚園教育の基本、「表現」領域のねらい及び内容並びに全体構造の理解
<b>2時限目</b>	「表現」領域のねらい及び内容、幼児が身に付けていく内容と指導上の留意点の理解
<b>3時限目</b>	幼稚園教育における評価の理解
<b>4時限目</b>	「表現」領域で幼児が経験する内容の関連性と小学校の教科等とのつながりの理解
<b>5時限目</b>	幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた表現領域における保育構想の重要性と理解
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	「表現」領域の特性、保育における情報機器及び教材の活用法
<b>2時限目</b>	指導案の構成、具体的な保育を想定した指導案内容と作成の理解
<b>3時限目</b>	模擬保育とその振り返り、保育を改善する視点への理解
<b>4時限目</b>	「表現」領域の特性に応じた保育実践の動向と保育構想の向上への取り組みと理解
<b>5時限目</b>	「造形と表現」実体験からの創作と表現・試験
<b>【成績評価方法】</b> 講義ごとの課題・提出物 70% ・試験 30%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：「図画工作」教科書</li> <li>・参考文献：・富山典子「絵画遊び技法百科」ひかりのくに 2001 2,800円（税別）</li> <li>・塙 和道・竹永亜矢「近畿大学九州短期大学研究紀要第46号2016」- 幼児表象画に学ぶ、講義「人物画演習」の導入と描法 - p45-58 近畿大学 2016</li> <li>・「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針〈原本〉」内閣府/文部科学省/厚生労働省 チャイルド本社 2017 500円（税別）</li> <li>・花篤 實・岡田愨吾「新造形表現 理論・実践編（幼児教育法講座）」三晃書房 2009 2,000円（税別）</li> <li>・ローダ・ケログ著「児童画の発達過程—なぐり描きからピクチュアへ」黎明書房 1971</li> <li>・W・ヴィオラ著「チゼックの美術教育」黎明書房 1999 5,700円（税別）</li> <li>・H・ガードナー「子どもの描画—なぐり描きから芸術まで」誠信書房 1996 4,200円（税別）</li> </ul>	

<b>科目名：音楽表現（指導法）</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 幼稚園教育・保育の領域「表現」に関する「ねらい」及び「内容」、全体構造を理解する。音楽表現の観点から幼児の発達や学びの過程を理解し、実践的な指導法を身につけるために必要な基礎的な知識、技能を習得する。	
<b>【講義内容】</b> 「表現」領域の中核的な保育内容である「表現あそび」の中から、音楽表現に関する「あそび」について、保育者の指導・援助の在り方、その方法を検討する。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 「音楽 ピアノ教本」に記載している「子どもの歌」に一通り目を通し、歌ってきてください。（各曲1番のみで結構です。）	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	教育要領、保育指針における領域「表現」
<b>2時限目</b>	幼児と音楽との関わり、幼児への指導法、保育者の指導上の留意点
<b>3時限目</b>	幼児の理解と評価
<b>4時限目</b>	音楽表現あそびの教材・情報収集
<b>5時限目</b>	音楽表現あそび（手あそび・歌あそび）
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	表現あそびの指導計画（指導案作成）
<b>2時限目</b>	模擬保育発表及び指導・援助についての振り返り
<b>3時限目</b>	小学校音楽の授業につながる音楽あそび（歌かるたあそび）
<b>4時限目</b>	様々な素材を使った音楽あそび（音描きあそび）
<b>5時限目</b>	様々な素材を使った音楽あそび（音楽劇あそび）、試験
<b>【成績評価方法】</b> 模擬授業の発表内容（30%）、指導計画の記述内容（20%）、その他課題の記述内容（30%）、筆記試験（20%）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 （平成29年3月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド社） 「音楽 ピアノ教本」（本学通信教育部）	

<b>科目名：健康（指導法）</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 堀田 亮</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ・幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。 ・「健康」に関する保育内容（①就学前段階の運動あそびの指導・援助、②基本的生活習慣の形成およびその援助、③健康、安全に関する保育活動）および方法を実践的に探究していくために必要な基礎的な知識、技能を獲得する。	
<b>【講義内容】</b> 幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動あそび」と「基本的生活習慣」に関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討していく。教育学、保育学、心理学、医学の諸領域による知見を理解することにくわえ、新聞やインターネットなど情報から現代的な課題を探求することによって実践的な課題を再確認していく。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ・授業内容に該当する「教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針解説書」の部分をあらかじめ読んでおくこと。 ・子ども、幼児、健康、子育て、からだ、スポーツ、体育などをキーワードとした新聞やインターネットの情報について日常的に興味・関心を持つようにすること。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	健康の概念、教育要領、保育所保育指針における「健康」領域
<b>2時限目</b>	乳児の運動発達①反射的運動の段階
<b>3時限目</b>	乳児の運動発達②初歩的運動の段階
<b>4時限目</b>	幼児の運動発達①基本的運動の段階
<b>5時限目</b>	運動あそびの指導計画の作成と指導法
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	事故防止と安全対策
<b>2時限目</b>	食事に関する保育内容と指導法
<b>3時限目</b>	排泄に関する保育内容と指導法
<b>4時限目</b>	生活リズム（睡眠・休養）に関する保育内容と指導法
<b>5時限目</b>	まとめの課題
<b>【成績評価方法】</b>	
面接授業中に提示する課題レポート（40%） まとめの課題レポート（60%）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
参考文献：内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針（H29年告示）』チャイルド本社 厚生労働省編『保育所保育指針解説書（H30年3月）』フレーベル館	

<b>科目名：人間関係（指導法）</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 金 俊華</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。</li> <li>・子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> <p>子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容および意義について学習する。また、子どもが、単に集団にうまく適応することのみを問題にするものではなく、「他者理解」を通して人の豊かなかかわりを経験することの意義を学ぶ。人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習する。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領および保育者保育指針の領域「人間関係」を熟読すること。</li> <li>・授業中、指示された課題をまとめて、提出すること。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	領域「人間関係」の観点
<b>2時限目</b>	領域「人間関係」のねらいと内容と何か
<b>3時限目</b>	自己の形成と他者理解
<b>4時限目</b>	集団における自己の発達
<b>5時限目</b>	社会性の発達と遊び
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	協力・競争・排除
<b>2時限目</b>	思いやりと道徳性の芽生えと集団生活に必要な規範
<b>3時限目</b>	子どものコミュニケーション
<b>4時限目</b>	保育者の役割と指導について
<b>5時限目</b>	まとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的参加（発表等）30%</li> <li>・試験70%</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは指定しない、授業中、資料を配布する。</li> </ul>	



<b>科目名：環境（指導法）</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 林 幸治</b> <b>准教授 高木 義栄</b> <b>講師 木下 智章</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 領域「環境」のねらいを念頭に、様々な環境にかかわる保育の内容及び指導に関する知識・技術・ICT機器の活用法を取得する。子どもの発達における環境の重要性と幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解する。	
<b>【講義内容】</b> 子どもの発達における環境の重要性や幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解し、領域「環境」のねらいについて学習する。様々な環境にかかわる保育の内容及び指導（ICT機器の活用を含む）について実践例とともに学ぶ。動物園実習を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養う。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の部分を読みこんでおくこと。図書館やインターネットで関連文献に目を通すこと。普段の生活の中で目にする自然に目を向け、観察する習慣をつけること。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらいと内容、構造
<b>2時限目</b>	領域「環境」の内容（1～11）と指導上の留意点
<b>3時限目</b>	幼稚園教育における評価と領域「環境」
<b>4時限目</b>	領域「環境」と小学校科目とのつながり
<b>5時限目</b>	幼児の発達・学びを意識した領域「環境」の観点からの保育構想
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	領域「環境」のねらい達成に向けたICT機器の活用法
<b>2時限目</b>	動植物園での模擬保育に向けた指導案の作成
<b>3時限目</b>	動植物園での模擬保育（作成した指導案による実践、グループワーク）
<b>4時限目</b>	動植物園での模擬保育の振り返り
<b>5時限目</b>	身近な自然・身近な事象・地域社会にかかわる保育実践、試験
<b>【成績評価方法】</b>	
「この授業（環境）で学んだこと」という課題でレポートを後日提出（70%） + グループ発表の内容（30%）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領。田尻由美子・無藤隆（編）『保育内容 子どもと環境 ―基本と実践事例―』同文書院、2006年。 参考文献：授業中に適宜プリントを配布する。	

<b>科目名：言葉（指導法）</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 金 俊華</b> <b>准教授 皆川 晶</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ①人間にとっての言葉（言語）の役割・言語獲得の理論を理解し、説明できる。 ②子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもとの関わり方を身につけ、実践できる。 ③保育所保育指針における保育内容「言葉」を理解し、言語環境の構成・言葉の力を育む指導を実践できる。	
<b>【講義内容】</b> 幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の必修科目であると共に、保育科卒業必修科目である。『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』における保育内容・言葉の「目標」「ねらい」「内容」を理解し、保育者としての子どもとの関わり方についての具体的な実践方法について検討し、実践できる力を身につけることを目指す。講義形式・グループワークを実施する。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 事前に『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領解説』保育内容・「言葉」の箇所に目を通しておくこと。 事後学習としては、授業の復習をすることはもちろん、授業内で提示する参考文献等で理解を深めてほしい。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	人間にとって言葉とは何か
<b>2時限目</b>	言語獲得の諸理論－生得説／環境節・養育放棄事例における子どもの言語獲得
<b>3時限目</b>	保育内容・言葉を理解する視点としてのコミュニケーション
<b>4時限目</b>	保育内容・言葉「ねらい」の理解－「目標」「内容」との関連を通して
<b>5時限目</b>	応答的／積極的関わり・言葉以前のコミュニケーション－「内容」の理解①
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	言葉を通した楽しい関わり－「内容」の理解②
<b>2時限目</b>	基本的信頼関係の構築－「内容」の理解③
<b>3時限目</b>	子どもの言葉をひきだす保育者の関わり－「内容」の理解④
<b>4時限目</b>	物語と子どもの表現力・文字への気づき－「内容」の理解⑤
<b>5時限目</b>	子どもの言葉を育む保育実践の構想と実践
<b>【成績評価方法】</b>	
・1日目レポート：45% ・2日目レポート：45% ・授業への参加・発言等：10%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
参考文献：厚生労働省『保育所保育指針解説書』2018年 フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2017年 フレーベル館 ・参考図書は授業中に紹介する。	

<b>科目名：教育心理学</b>		<b>開講学年：1年次</b>
<b>担当：准教授 木下 寛子 講師 神近 裕樹 講師 宮本 純子 講師 坂口 美由紀</b>		<b>単位数：1単位</b>
<b>履修区分：専門教育科目</b>		
<b>【到達目標】</b>		
子どもたちの最も近くに居る者の一人として、子どもが学び育つということの意味を学び、子どもへの関わり手としての基礎的な態度を養うことが主題である。そのために①発達論、学習論の基礎的知識を修得し、②幼児期にある子どもの生活を、理論的に捉えて支え、学びと探求を十全に展開させるための基本的な態度の基礎を形成することを到達目標とする。		
<b>【講義内容】</b>		
本講義は、特に幼児期を中心に、生涯（特に青年期まで）にわたる変化の理解に向けて、子どもの発達（育ち）と学習（学び）の過程を学ぶことを目的とする。これらの事象は個に閉じた事象ではなく、取り巻く環境に支えられていることも見逃せない。本講義では、多様な子どもたちが多様な環境の中で何をいかに学び・育ち、またいかにそれらの場で「躓き」の体験をするのか、またその場に居合わせる大人としてできることは何か、多様な例を通じて考え進めていく。		
<b>【事前学習及び事後学習】</b>		
・あらかじめテキストに目を通しておくこと。実際に保育の中でどのように心理学の知見を活用できるのかを考え、レポート作成やグループ討議を行うこと。		
<b>【授業計画】</b>		
<b>&lt; 1 日目 &gt;</b>		
1 時限目	「学びの場の中の子ども」——発達に関する基礎概念	
2 時限目	発達（1）発達論①—運動・認知発達について	
3 時限目	発達（2）発達論②—ことばと社会性の発達	
4 時限目	学びと遊びと環境——主体的な学びを支えるものと発達	
5 時限目	学習の基礎（1）記憶——知識と問題解決	
<b>&lt; 2 日目 &gt;</b>		
1 時限目	学習の基礎（2）学習理論	
2 時限目	学びや探求を支えるもの——動機づけ・集団づくり・学習評価	
3 時限目	学習指導・発達支援の基礎（1）学び育つ者と教え育む者の関係論	
4 時限目	学習指導・発達支援の基礎（2）学びと育ちの多様性	
5 時限目	学習指導・発達支援の基礎（3）教育と支援	
<b>【成績評価方法】</b>		
・授業への積極的参加（発言や演習、グループ討議への参加を含む） 40%		
・授業日程ごとに課すレポート課題の評価 60%		
<b>【テキスト及び参考図書】</b>		
テキスト：伊藤健次編『保育に生かす教育心理学』（株みらい 2008年）		
参考文献：鹿毛雅治（2005）教育心理学の新しいかたち 誠信書房		
無藤隆・麻生武（2008）育ちと学びの生成（質的心理学講座） 東京大学出版会		
石隈利紀（1999）学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス— 誠信書房		

<b>科目名：音楽表現技術</b>				<b>開講学年：2年次</b>	
<b>担当：教授</b> 久世 安俊 講師 江川 靖志 講師 上田 浩平 講師 合田 弥生 講師 中島 美保 講師 中村 寛子 非常勤講師 井上 幸一				<b>単位数：1単位</b>	
<b>履修区分：専門教育科目</b>					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼児と音楽表現」での学修を元に、より実践的な歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法を習得する。</li> <li>・教育現場に必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やす。</li> </ul>					
<b>【講義内容】</b>					
子どもの歌やコールユーブンゲンを歌うことでレパートリーを増やし音程の感覚を養う。楽典の作品解釈を行い、音楽表現の向上と音楽方法についても検討する。					
<b>【事前学習及び事後学習】</b>					
歌唱、ピアノともに練習あるのみです。特にピアノで初見状態でのレッスンは成立しないので、課題への取り組み、授業後の復習は最低でも60分は楽譜を見て練習を毎日続けていくことが望ましい。焦ることなく、丁寧に取り組むこと。 ＊受講条件として、記録票：ピアノの部分はすべて個人レッスンを受け指導者の押印があることとする。個人レッスンについては、専門家または保育者の指導を必ず受けること。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>					
1時限目	基礎練習 楽曲振り返り コールユーブンゲン：18・19				
2時限目	コールユーブンゲン：20・22・23／ピアノ弾き歌い3～5				
3時限目	コールユーブンゲン：25・26・28／ピアノ弾き歌い6・7・8				
4時限目	コールユーブンゲン：32・34 コンコーネ：3／ピアノ弾き歌い10・12・15				
5時限目	コールユーブンゲン：36・40 コンコーネ：5／ピアノ弾き歌い17・19・20・22				
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>					
1時限目	子どもの歌：3・4・5・7／ピアノ弾き歌い25・27・31・32・34				
2時限目	子どもの歌：8・12・13・16／ピアノ弾き歌い38・39・44・48・49				
3時限目	子どもの歌：18・20・21・36／ピアノ弾き歌い52・53・54・55				
4時限目	子どもの歌：38・39・42・44／ピアノ弾き歌い59・62・67 復習				
5時限目	実技試験				
<b>【成績評価方法】</b>					
実技試験（80％） 授業への積極的参加・質問（20％）					
<b>【テキスト及び参考図書】</b>					
テキスト：「音楽〈声楽教本〉」「音楽〈ピアノ教本〉」 参考資料：授業中に適宜資料を配布する。					

<b>科目名：幼児と健康</b>	<b>開講学年：2年次</b>
	<b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 堀田 亮</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今の時代を生きる子どもたち」に対する運動あそびのもつ教育的意義について説明できる。</li> <li>・各種の運動あそびを素材とした短期の指導計画を作成することができる。</li> <li>・運動あそびの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b>	
<p>幼児期の運動あそびを体験することを通して、保育者として必要な運動あそびのレパートリーを増やすこととバリエーションの上げ方を理解するとともに、運動あそびの指導に必要な保育技術についても検討したい。また、運動指導の系統性に関する理論学習によって就学前体育の実践課題についても検討する。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」の「第2章 子どもの発達」を熟読し、それぞれの段階の発達の特徴について理解を深めること。</li> <li>・子育て支援に関するボランティア活動に積極的に参加し、観察や実際に幼児と触れ合ったりすることによって、運動、言語、ルール認識の発達段階について理解を深めること。</li> <li>・教育・保育実習で運動遊びを素材とした部分実習に取り組むこと。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	オリエンテーション、アイスブレイキングゲーム
<b>2時限目</b>	コミュニケーションゲーム
<b>3時限目</b>	乳幼児期の運動発達と指導計画の作成について
<b>4時限目</b>	運動あそびの指導計画の作成①
<b>5時限目</b>	運動あそびの指導計画の作成②
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	運動あそびの指導計画の実践①
<b>2時限目</b>	運動あそびの指導計画の実践②
<b>3時限目</b>	運動あそびの指導計画の実践③
<b>4時限目</b>	運動あそびの指導計画の実践④
<b>5時限目</b>	まとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
<p>実技中のグループワークへの取り組み（30%）          乳幼児期における運動あそびの意義についての記述レポート（35%）          幼児を対象とした運動あそびの指導計画（あそびの説明、指導上の留意点）の作成（35%）</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<p>配本テキスト          参考文献：厚生労働省『保育所保育指針解説書（H30年3月）』フレーベル館          学校体育研究同志会編『幼児期 運動あそびの進め方』創文企画          黒井信隆・山本秀人編『0～5歳児のたのしい運動あそび』いかだ社</p>	

<b>科目名：幼児と造形表現</b>		<b>開講学年：2年次</b>
<b>担当：准教授 竹永 亜矢 講師 埴 和道 講師 川里 智子 講師 岡野 千晴</b>		<b>単位数：1単位</b>
<b>履修区分：専門教育科目</b>		
<b>【到達目標】</b>		
本講義では、様々な素材や表現方法を通して自己を表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組む事で、幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的造形教育指導の習得を目指す。		
<b>【講義内容】</b>		
授業では、実技課題として美術表現技法の技法体験から表現の特徴を学び、子どもとの創作活動に役立つ様々な素材や表現方法の基礎知識を習得する。応用として共同で作品制作、制作後鑑賞を行い表現への理解を深め、授業の制作記録、感想文を記述する。		
幼児画の発達講義では、幼児画の発達過程と特長の理解を深め、幼児期の発達に適した創作活動の援助について考察する。		
<b>【事前学習及び事後学習】</b>		
・自分が使用する材料、道具の準備をきちんと行う。 ※指定している持参材料・道具は、指定されたものを必ず持参する事。 ・制作した作品は大切に保管し、制作工程、感想を記録する。		
<b>【授業計画】</b>		
<1日目>		
1時限目	美術表現技法「デカルコマニー」制作	
2時限目	講義1 幼児画の発達過程 「子供の絵と造形、表現発達について」	
3時限目	講義2 幼児画の特徴 「縦断的子どもの描画記録から」	
4時限目	講義3 幼児と造形活動「子どもの作品は生活の鏡」感想文の記述	
5時限目	美術表現技法（体験）「スパッタリング・ローリングオブタイプ・ストリングデザイン」	
<2日目>		
1時限目	美術表現技法（体験）「ローラーあそび・フロッタージュ・マーブリング染紙」	
2時限目	美術表現技法による作品制作1「スタンピング」	
3時限目	美術表現技法による作品制作2「デカルコマニー見立て遊びとデッサン」	
4時限目	共同制作 四季の行事をテーマに「美術表現技法の活用と表現」	
5時限目	共同制作「作品仕上げと鑑賞」感想文の記述	
<b>【成績評価方法】</b>		
・課題作品、感想文 70% ・材料、道具、授業準備 30%		
<b>【テキスト及び参考図書】</b>		
・テキスト「図画工作」・「造形表現(指導法)」教科書		
参考文献：・事例で学ぶ保育内容領域「表現」 萌文書店 2007 2,000円（税別）		
・H・ガードナー「子どもの描画—なぐり描きから芸術まで」 誠信書房 1996 4,200円（税別）		
・鳥居昭美「こどもの絵をダメにしていますか？」 大月書店 2004 1,500円（税別）		
・「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針〈原本〉」内閣府/文部科学省/厚生労働省 チャイルド本社 2017 500円（税別）		
・竹永亜矢・埴 和道・岡野千晴・川里智子「近畿大学九州短期大学研究紀要 第48号2018」近畿大学 2018		
・竹永亜矢・埴 和道・岡野千晴・川里智子「近畿大学九州短期大学研究紀要 第47号2017」近畿大学 2017		
・ローダ・ケロッグ著「児童画の発達過程—なぐり描きからピクチュアへ—」黎明書房		
・W・ヴィオラ著「チゼックの美術教育」黎明書房 1999 5,700円（税別）		



<b>科目名：教育実習事前事後指導</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 垂見 直樹</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。</li> <li>・観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。</li> <li>・「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> <p>幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、以下のような教育実習に関わった基礎的な知識の理解を深めていく。①幼児期の発達段階、②幼稚園の機能と役割、③幼稚園教諭の職務と役割、④観察記録の作成方法、⑤指導計画の立案方法。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども・子育て支援制度など、幼児教育や子育てに関わった現代的な課題を新聞などの情報によって確認し、把握しておくこと。</li> <li>・実習で使用する手あそび、歌あそび、ゲームなどのレパートリーを増やしておくこと。</li> <li>・子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めるために、ボランティア活動に積極的に参加すること。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の教員養成の目標と教育課程、教育実習の意義</li> <li>・幼稚園の機能と役割、法的根拠、幼稚園教育を取り巻く状況</li> <li>・幼稚園教員の職務と役割</li> <li>・幼児期の発達課題と生活課題、家庭との連携</li> <li>・実習園選定に向けた情報収集の方法</li> <li>・観察・参加実習における記録作成の意義と方法</li> <li>・指導計画の作成の方法①（「朝の会」「昼食指導」の指導計画）</li> <li>・指導計画の作成の方法②（「中心となる活動」の指導計画）</li> <li>・教育実習に向けた準備</li> <li>・まとめの課題</li> </ul>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>面接授業中に提示する課題レポート（40%）  まとめの課題レポート（60%）</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>配本テキスト  参考文献：内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 500円（税別）  林幸範・石橋裕子編「保育園・幼稚園の実習完全マニュアル」成美堂出版 1,200円（税別）  東山明・名賀三希子「教育・保育実習実技ガイド」ひかりのくに 1,000円（税別）  片山紀子編「保育実習・教育実習の設定保育」朱鷺書房 1,200円（税別）</p>	



<b>科目名：保育内容総論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 垂見 直樹</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ①保育内容の史的展開を踏まえ、保育所保育や子どもの育ちをめぐる現状と課題について説明できる。 ②保育所保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理について説明でき、実践に反映できる。 ③保育の総合性を踏まえ、指導計画を立案し、実施することができる。 ④子どもの最善の利益について複眼的に思考し、保育実践を批判的に検討することができる。	
<b>【講義内容】</b> 『保育所保育指針解説書』を中心に、保育をめぐる基礎知識を習得し、基本原理を理解することを目指す。同時に、基本原理を踏まえ、指導計画を立案し、実践する力を養う。講義形式の他、グループワークや受講生同士の議論を通して、保育実践を構築し、批判的に検討できる力の素地を培う。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 事前に『保育所保育指針解説書』第1章「総則」に目を通しておくこと。 事後学習としては、本講義で学んだ保育所保育の全体的構造を、他の教科目との関連づける意識を忘れないでほしい。また授業内で提示する参考文献等で理解を深めてほしい。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt;1日目&gt;</b>	
1時限目	日本における子ども・子育てをめぐる現状と課題－保育の基礎知識①
2時限目	幼稚園・保育所の成立と保育方法の史的展開－保育の基礎知識②
3時限目	保育所保育の目的・役割－保育の基本原理①
4時限目	保育内容「ねらい」・「内容」の意味－保育内容の理解①
5時限目	保育の総合性とは何か－保育内容の理解②
<b>&lt;2日目&gt;</b>	
1時限目	指導計画立案の考え方・書き方の基本
2時限目	子どもの発達過程に応じた保育
3時限目	遊びと保育
4時限目	子どもの「最善の利益」とは－保育所保育をめぐる論点と議論
5時限目	小学校との接続・共生の保育
<b>【成績評価方法】</b>	
・1日目レポート：45% ・2日目レポート：45% ・授業への参加・発言等：10%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<b>&lt;テキスト&gt;</b> ・開仁志編著『マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論』2016年 保育出版社 2,270円(税別) ・厚生労働省『保育所保育指針解説書』2018年 フレーベル館 190円(税別) ・参考図書は授業中に紹介する。	

<b>科目名：劇あそび（指導法）</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 久世 安俊</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。</li> <li>・子どもの発達に即した遊びの過程を理解し、どのような援助が必要か考えることができる。</li> <li>・子どもの表現を育てうる実践力と指導法を身に付ける。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> 領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び（ごっこ、劇あそび）の内容と意義について学習する。伴う表現活動（歌う、演奏する、踊るなど）の演習課題を通し、感じたり、考えたり、想像したり、創造する力を養う。毎時間、復習ノートの作成を行う。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 授業の内容をしっかりと記録し、復習ノートを作成。事前事後と確認し活用する。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1 日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	領域「表現」のねらいと内容
<b>2 時限目</b>	身ぶり表現の発達
<b>3 時限目</b>	身ぶり表現活動の発展と指導法・活動評価の考え方
<b>4 時限目</b>	幼児の音楽表現（保育現場での音楽・リトミック）
<b>5 時限目</b>	「劇あそび」の意義と役割
<b>&lt; 2 日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	「劇あそび」における援助（イメージの実現・環境の設定・人との関わり）
<b>2 時限目</b>	「劇あそび」の指導計画立案の要点・作成（表現あそび課題説明）
<b>3 時限目</b>	課題の創作（グループワーク）
<b>4 時限目</b>	グループ発表と鑑賞・振り返り
<b>5 時限目</b>	表現を育てる保育・試験
<b>【成績評価方法】</b>	
試験（70％） グループ発表（30％）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
内閣府・文科省・厚労省『幼保連携型こども園教育、保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』（チャイルド本社） その他、参考資料として適宜資料を配布する。	

<b>科目名：児童文化</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 井上 和子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b>	
<p>児童文化は、文化全般の中で子ども達に関わる領域の文化であり、子ども達のために作り出されたものや子ども達自身が作り出したものが、生活の中で生まれ、伝承していくものである。現在の学校教育偏重の子どもの生活の中で、学校教育にない重要な部分の学習の機会を得る児童文化の領域の存在意義は極めて大きい。この児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握し、時間の許す限り実習も行い、児童文化の分野の実践的な指導ができるようになることを目標とする。</p>	
<b>【講義内容】</b>	
<p>講義と製作実習と演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義－児童文化とは何か、歴史を追いながら考えるとともに、現在の児童文化についての知識を深める。</li> <li>・製作実習－グループで話し合い、子ども達のために児童文化財を作る。</li> <li>・演習－グループに分かれ、製作時に作った児童文化財を使用しての部分実習を行う。</li> </ul>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から、児童文化や児童文化財に触れ、子どもたちにとって望ましい児童文化や児童文化財に興味・関心を持ち、作ることができるようになる。</li> <li>・伝承遊びについて興味・関心を持ち、自ら遊ぶことができ、子どもたちに指導できるようになる。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	児童文化とは何か。児童憲章における児童文化。歴史にみる子どもの存在。
<b>2時限目</b>	日本での児童文化の確立。現代の児童文化。
<b>3時限目</b>	テキストの補足説明①
<b>4時限目</b>	テキストの補足説明②
<b>5時限目</b>	グループに分かれ、児童文化財の製作①
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	グループに分かれ、児童文化財の製作②
<b>2時限目</b>	グループに分かれ、児童文化財の製作③
<b>3時限目</b>	部分的な指導計画案作成および練習
<b>4時限目</b>	グループ毎の部分実習練習
<b>5時限目</b>	グループ毎の部分実習発表
<b>【成績評価方法】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎に部分実習における指導案を作成する。</li> <li>・個別に部分実習の反省と、それぞれのグループの評価をする。</li> </ul> <p>以上の2点を加え、総合的に評価する。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<p>テキスト：『児童文化』 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』フレーベル館</p>	

<b>科目名：保育実習事前事後指導 I (保育所)</b>	<b>開講学年：2 年次</b> <b>単位数：1 単位</b>
<b>担当：教 授 大津 泰子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。</li> <li>・ 指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。</li> <li>・ 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> <p>この科目では、初めに保育実習の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して保育所実習についての授業を行う。保育所実習前にすべき事柄・指導計画案の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な事例に基づきながら行っていく。また、保育所の実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。「保育実習 I」終了後は、実習の反省、次回の実習にむけた課題など実習事後レポートをまとめる。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備</li> <li>・ 保育所の社会的役割、種類、内容などについての事前学習</li> <li>・ 各自設定した、保育所における実習目標、課題、学習計画にそって、実習にむけた準備</li> <li>・ 実習終了後の、実習事後レポートの作成と提出</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1 日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	保育実習の全体の流れと諸注意
<b>2 時限目</b>	保育所実習の意義・目的・内容について
<b>3 時限目</b>	保育所の 1 日の流れとデイリープログラムの理解
<b>4 時限目</b>	保育所実習の実習記録作成について（実習日誌の書き方）
<b>5 時限目</b>	保育所実習の指導案作成について（指導案の書き方）
<b>【成績評価方法】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①保育実習事前レポート 60%</li> <li>②授業への積極的参加と課題等提出 40%</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<p>テキスト：石橋裕子他編『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版』同文書院 2018年</p> <p>参考文献：『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社</p> <p>『保育所保育指針解説書（H30年3月）』厚生労働省 フレーベル館</p>	

<b>科目名：保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 渡邊 暁</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習（施設）の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。</li> <li>・ 指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。</li> <li>・ 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> <p>この科目では、初めに保育実習（施設）の意義・目的・内容といった保育実習（施設）の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して児童福祉施設実習（保育所以外）についての授業を行う。児童福祉施設実習に関するそれぞれの授業において、実習前にすべき事柄・指導計画案の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な事例に基づきながら行っていく。また、児童福祉施設におけるそれぞれの実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。「保育実習Ⅰ」終了後は、実習の反省、次回の実習にむけた課題など実習事後レポートをまとめる。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や部分指導など保育実習に向けた準備</li> <li>・ 児童福祉施設の社会的役割、種類、内容などについての事前学習</li> <li>・ 各自設定した、児童福祉施設における実習目標、課題、学習計画にそって、保育実習（施設）にむけた準備</li> <li>・ 実習終了後の、実習事後レポートの作成と提出</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	施設実習に関する基礎的理解と諸注意
<b>2 時限目</b>	施設における保育内容と養護
<b>3 時限目</b>	施設の役割と機能について
<b>4 時限目</b>	施設実習の実習記録作成について（実習日誌の書き方）
<b>5 時限目</b>	施設実習の指導案作成について（指導案の書き方）
<b>【成績評価方法】</b>	
①保育実習（施設）事前レポート40% ②「保育実習Ⅰ」の実習事後レポート40% ③授業への積極的参加と課題等提出20%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：石橋裕子他編『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版』同文書院 2018年 参考文献：『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子他 同文書院 2017年 2,000円（税別） 『保育所保育指針解説書（H30年3月）』厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド 第2版』太田光洋編著 ミネルヴァ書房 2015年 3,200円（税別）	

<b>科目名：保育実習Ⅰ（保育所）</b>	<b>開講学年：2年次・専攻科</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：教授 大津 泰子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるが理解することができる。</li> <li>・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。</li> <li>・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> 「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所における1日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする。</li> <li>・各自の実習のねらい、課題を明確にする。</li> <li>・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする。</li> </ul>	
<b>【実習計画】</b> <保育所実習> 保育実習Ⅰの「保育所実習」では、以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する。 1. 保育所の内容、機能について理解する。（保育所の1日の流れやプログラムの理解など） 2. 保育所における子どもの理解。（年齢（月齢）ごとの子どもの発達とその特徴など） 3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。 4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ。 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。	
<b>【成績評価方法】</b> ①実習日誌・事後レポートなどの提出物50% ②実習園の評価30% ③勤務状況等20%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：石橋裕子他編『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版』同文書院 2018年 参考文献：『幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子他 同文書院 『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 『保育所保育指針解説書（H30年3月）』厚生労働省 フレーベル館 その他、書店で指導計画作成書や、教材研究に関する書物を探して活用すること。	



<b>科目名：保育実習Ⅰ（施設）</b>	<b>開講学年：2年次・専攻科</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 渡邊 暁</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。</li> <li>・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。</li> <li>・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> 「保育実習Ⅰ」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設（保育所以外）で行う実習である。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。それぞれ10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①施設における1日の流れ ②子どもや障害者への理解を深める ③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や部分指導など施設実習に向けた準備をする。</li> <li>・各自の実習のねらい、課題を明確にする。</li> <li>・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする。</li> </ul>	
<b>【実習計画】</b> <施設実習> 保育実習Ⅰの「施設実習」では、以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の内容、機能などを理解する。（1日の流れ、子どもや障害者の活動など）</li> <li>2. 施設保育士の職務内容および役割、また他の職員とのチームワークなどの理解</li> <li>3. 子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する。</li> <li>4. 日誌の書き方を学ぶ。</li> </ol> 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。	
<b>【成績評価方法】</b> ①実習日誌・事後レポートなどの提出物50% ②実習施設の評価30% ③勤務状況等20%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：石橋裕子他編『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版』同文書院 2018年 参考文献：『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子他 同文書院 2017年 2,000円（税別） 『保育所保育指針解説書（H30年3月）』厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド 第2版』太田光洋編著 ミネルヴァ書房 2015年 3,200円（税別） その他、書店で指導計画作成書や、教材研究に関する書物を探して活用すること。	



<b>科目名：教育実習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：4単位</b>
<b>担当：准教授 垂見 直樹</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。</li> <li>・ 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。</li> <li>・ 幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。</li> <li>・ 部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> <p>専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために第1回（2週間）の実習では、観察・参加実習、部分実習を、さらに、第2回（2週間）の実習では、指導実習を主とする実習を行うこととする。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習で使用する手あそび、歌あそび、ゲームなどのレパートリーを増やしておくこと。</li> <li>・ 配属クラスの年齢に応じた指導計画案を作成すること。</li> <li>・ 実習後の授業、保育実習、就職活動、さらに、就職後の活動に向けた課題が鮮明になるような事後レポートを作成すること。</li> </ul>	
<b>【実習計画】</b> <p>&lt; 1回目：2単位 &gt;  以下のような観察視点から幼稚園においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握することに努める。①幼稚園における1日の生活・活動の流れと生活・活動内容の概要、②遊び・生活場面での園児の行動、③園児の行動に対する幼稚園教諭の対応  参加実習では、指導教諭の指導と助言を受けながら、教育活動や園務に積極的に従事する。</p> <p>&lt; 2回目：2単位 &gt;  1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら、以下のような学習内容を獲得していく。①部分実習、全日実習の指導計画の作成および指導、②幼稚園教諭としての保育技能の習得および態度の養成、③幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習日誌の記述内容 (50%) : ①「観察記録」の記述内容、②「本日の実習についての反省・感想・今後の課題など」の記述内容</li> <li>2. 指導計画の記述内容 (30%) : ①「朝の会」「絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びや音楽の弾き歌いなどの短時間で行える活動」「昼食指導」「帰りの会」の部分実習、②「午前の主な活動」「午後の主な活動」の部分実習</li> <li>3. 実習園による評価 (20%)</li> </ol>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：「教育実習事前指導」</p> <p>参考文献：内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領・保育所保育指針（H29年告示）』チャイルド本社  林幸範・石橋裕子編著「保育園・幼稚園の実習完全マニュアル」成美堂出版  東山明・名賀三希子著「教育・保育実習実技ガイド」ひかりのくに  片山紀子編著「保育実習・教育実習の設定保育」朱鷺書房</p>	

<b>科目名：言語表現</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 皆川 晶 他</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現技術のひとつとしての言語表現について、基礎知識・技術を習得する。</li> <li>・絵本や紙芝居を中心とする児童文化財に関する基礎知識を習得し、表現力豊かな実演を行うことができる。</li> <li>・言語表現活動が子どもの人間形成に果たす意義を理解する。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> 「知識」に関しては、昔話、絵本などに多く接し、言葉と表現力について学ぶ。保育者として、物語を吟味・分析する視点を得る。「技術」に関しては、言語環境の構成やよみきかせの基本を理解し、実践力を高める。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 日頃から興味・関心をもって自ら絵本や物語に多く触れることを期待する。授業で得た知識や視点を応用し、私たちが日常的に接する物語を様々な視点から吟味・分析し、味わう意識をもってほしい。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	子どもの言葉と表現力
<b>2時限目</b>	絵本・物語の魅力
<b>3時限目</b>	おすすめ絵本の紹介
<b>4時限目</b>	よみきかせの基本
<b>5時限目</b>	よみきかせの実践
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	昔話にふれる
<b>2時限目</b>	言葉のあそび ①構成
<b>3時限目</b>	言葉のあそび ②制作
<b>4時限目</b>	言葉のあそび ③仕上げ
<b>5時限目</b>	子どもの言語表現力
<b>【成績評価方法】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品：40%</li> <li>・口頭表現：30%</li> <li>・提出物：30%</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは使用しない。講師作成の資料を配付する。</li> <li>・参考図書は授業中に紹介する。</li> </ul>	

<b>科目名：乳幼児心理学</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：講師 宮本 純子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ・乳幼児期の子どもの発達の特徴を理解する。 ・保育者としての適切な子どもへの関わり方を習得する。	
<b>【講義内容】</b> ・講義において乳幼児の発達の理解とそれを支援する保育者の対応を学ぶ。 ・理解を深めるために、ビデオ学習を行う。 ・保育者と子どものロールプレイを行い、子どもへの理解を深める。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ・実習等に関わる子どもの発達像を遊びや食事の場面等で観察する。 ・授業後に、レポートや小テストを実施する。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	乳幼児期の発達の特徴とその意味。
<b>2時限目</b>	愛着と親子関係。
<b>3時限目</b>	感覚と知覚。
<b>4時限目</b>	グループ学習：保育者と子どものロールプレイ。
<b>5時限目</b>	感情と動機づけ。
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	ハントの発達理論と教育理論。
<b>2時限目</b>	ピアジェの発達理論。
<b>3時限目</b>	自己の発達。
<b>4時限目</b>	社会性と仲間関係。
<b>5時限目</b>	遊びの重要性。
<b>【成績評価方法】</b>	
①授業への積極的参加 ②小レポート	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：「乳幼児心理学」 参考文献：桜井茂男編著「はじめて学ぶ乳幼児の心理」有斐閣 2006年 岡本依子ほか著「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」新曜社 2004年	

<b>科目名：子どもの食と栄養</b>	<b>開講学年：2年次</b>
	<b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 秋武 由子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解する。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b>	
<p>保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、各時期の特性や、栄養について理解させ、調理の技能の習得を目指す。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストには必ず目を通し、参考文献も何冊か読んでおくこと。</li> <li>・実習で学習した内容の定着をはかるための事後学習を行うこと。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	乳児期の授乳栄養について
<b>2時限目</b>	調乳実習
<b>3時限目</b>	離乳栄養について
<b>4時限目</b>	離乳食実習
<b>5時限目</b>	離乳食実習
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	幼児期の栄養について
<b>2時限目</b>	幼児食実習（弁当、だしの取り方）
<b>3時限目</b>	幼児食実習（弁当、だしの取り方）
<b>4時限目</b>	小児期の食生活について（間食、食育、アレルギー対応等）
<b>5時限目</b>	間食、手洗いに関する実験
<b>【成績評価方法】</b>	
通信授業科目	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート提出、科目終末試験の結果に基づいて評価する。</li> </ul>	
面接授業科目	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習態度点（20%）、実習レポート（40%）、課題レポート（40%）で評価する。</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<p>テキスト：二見大介・高野陽編、『子どもの食と栄養』、北大路出版 2011年  参考文献：藤沢良知著『子どもの心と体を育てる食事学』第一出版 2006年  上田玲子編『新版 子どもの食生活』ななみ書房 2013年  小野友紀『授乳・離乳の支援ガイドにそった離乳食』芽ばえ社 2010年  高橋美保『保育者のための食育サポートブック』ひかりのくに 2012年</p>	

<b>科目名：障害児保育</b>	<b>開講学年：2年次</b>
<b>担当：准教授 橋本 翼</b>	<b>単位数：1単位</b>
	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児保育の対象となる障がいの特徴について理解する。</li> <li>・障害児保育の実際や保護者への支援に関する基礎的な知識を習得する。</li> <li>・小学校への移行や他機関との連携などに関する基礎的な知識を習得する。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず障害児保育の歴史と理念について学び、各障がいについての理解を深めていく。</li> <li>さらに、保育現場でそれぞれの障がいを抱えた子どもや子どもの保護者をどのように支援していく必要があるかを考える。講義だけでなく、演習を通じて学生が体験的に学べる機会を提供したい。</li> </ul>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを熟読しておくこと。また、各自特別支援教育や障害児保育に関連する書籍を積極的に読み込み、保育者として「自分ならどう関わるか」「自分ならどのように支援するか」を考えておくこと。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	障害児保育の歴史と理念
<b>2時限目</b>	乳幼児期の発達的問題
<b>3時限目</b>	知的遅れのある子どもの保育
<b>4時限目</b>	からだの不自由な子どもの保育
<b>5時限目</b>	自閉症スペクトラム障害の理解と保育現場における支援
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	ADHDの理解と保育現場における支援
<b>2時限目</b>	視覚障害・聴覚障害の理解と支援
<b>3時限目</b>	就学に向けて
<b>4時限目</b>	保護者への支援
<b>5時限目</b>	障害児保育の実践
<b>【成績評価方法】</b>	
2日間の課題レポートの成績で評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<p>テキスト：尾崎康子（他）編『よくわかる障害児保育 第2版』ミネルヴァ書房 2017年  参考文献：渡辺信一・本郷一夫・無藤隆 編『障害児保育』北大路書房 2009年  ・その他適宜資料を配布する。</p>	

<b>科目名：社会的養護Ⅱ</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 渡邊 暁 他</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 社会的養護の原理と原則を踏まえて、以下の4点に重点を置く。 1. 社会的養護施設の機能と役割を説明できる。 2. 自立支援計画や養護の理解と簡単な作成を行える。 3. 事例を通して、施設保育者の役割と意義を学び、自らの意見を述べるができる。 4. 子ども虐待の防止と家庭支援について説明できる。	
<b>【講義内容】</b> 家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョン（社会的包括）の拡がりの中で、居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。また、特に障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設養護観の形成を目指す。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> テキストや配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深める。新聞やテレビ、ネットなどを観て、社会で起きていることを情報収集する。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	児童の権利擁護 児童の最善の利益について考える
<b>2時限目</b>	里親制度の特性と養育の実際
<b>3時限目</b>	乳児院・児童養護施設・ファミリーホームの養育をめぐる状況と支援の実際
<b>4時限目</b>	ひとり親家庭、母子生活支援施設と支援の実際
<b>5時限目</b>	情緒障害のある子どものための施設と支援の実際
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	障害児施設（入所・通所）の療育と支援の実際
<b>2時限目</b>	自立支援計画 子どもへの支援における記録について
<b>3時限目</b>	里親・ファミリーホームと専門機関とのつながり
<b>4時限目</b>	虐待された子どもと家族への支援
<b>5時限目</b>	施設と家族との関わりと地域との連携
<b>【成績評価方法】</b>	
①試験結果50% ②レポート課題30% ③授業への積極的参加20%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
参考文献：小木曾宏ほか編『よくわかる社会的養護内容 第3版』ミネルヴァ書房 2015年 吉田真理著『児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護内容 第3版』萌文書林 2016年 畠中義久編『社会的養護内容総論〔その理論と実際〕』同文書院 2014年 中野菜穂子／水田和江編『社会的養護の理念と実践』みらい 2012年	

<b>科目名：子育て支援</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 鬼崎 信好</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> この科目は、将来において保育士を目指す受講生にとって必要とされる子育て支援・相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成、援助過程や各技術を効果的に活用するための理論と方法を身に付けることを目標とします。	
<b>【講義内容】</b> 通信教育は自学学習が基本になっていますので、理解しにくいことが多いと思います。そこで、面接授業ではDVDや資料を基に授業をしていきたいと思います。①「事例」を通して子育て支援・社会福祉援助活動（社会福祉援助技術）の実際と、②「社会福祉」と「相談援助」を学んでいく過程で理解できないことを、Q&A方式で説明していくことにしています。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 事前学習として、相談援助活動に関する自分の疑問点をA4の用紙（何枚でも可）に3点以上記し、面接授業時に必ず提出してください。事後学習としては、テキストや配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深めてください。（成績評価の対象とします）。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	子どもを巡る経済・社会状況(1)
<b>2 時限目</b>	子どもを巡る経済・社会状況(2)
<b>3 時限目</b>	子育て支援と行政
<b>4 時限目</b>	子育て支援と地域社会
<b>5 時限目</b>	子ども・保護者と保育士
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	関係機関・専門職等との連携・協力・協同
<b>2 時限目</b>	社会資源の活用・利用方法
<b>3 時限目</b>	社会福祉援助技術 事例研究
<b>4 時限目</b>	社会福祉援助技術 事例研究
<b>5 時限目</b>	授業内容の振り返り
<b>【成績評価方法】</b> ①科目終末試験結果50% ②レポート課題30% ③面接授業への積極的参加20%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> 鬼崎信好編『四訂社会福祉の理論と実際』中央法規出版 2007年 社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法①』中央法規 2018年 社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法②』中央法規 2018年 鬼崎信好編『コメディカルのための社会福祉概論（第5版）』講談社 2019年 九州社会福祉研究会編『21世紀の現代社会福祉用語辞典（改訂）』学文社 2019年 ※その他の参考文献はテキストの各章末尾にある参考文献を参照してください。	



<b>科目名：青年心理学</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 橋本 翼</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 1. 青年期の発達課題について学び、誕生から青年期に至るまでの発達の連続性を見通して保育を行うことができるための知識を獲得する。 2. 青年心理学を学ぶことを通じて自己理解を深めることで、対人援助職である保育の専門家としての資質を向上させる。	
<b>【講義内容】</b> 青年期の発達の特徴、身体の発達、知的発達、自己形成、人間関係の発達、社会的発達、青年と文化、青年期の精神病理現象、青年期への心理的援助等について講義、グループワークを通じて学んでいく。講師の講義のみで授業を進めるのではなく、参加者と共に考え、体験的に学ぶ場を提供したい。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 1. テキストを読みこみ、分からない点は参考文献等を参照して積極的に学んでおくこと。 2. 青年心理学を通じて自己理解を深め、保育者としての自己研鑽に本授業で得られた知見を活用すること。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	青年心理学とは
<b>2時限目</b>	青年期の自己形成（アイデンティティの確立）
<b>3時限目</b>	青年期のからだところの発達
<b>4時限目</b>	青年期における自立（家族との関係）
<b>5時限目</b>	青年期の友人関係の発達
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	青年期の恋愛と結婚
<b>2時限目</b>	青年と文化
<b>3時限目</b>	青年期の道徳性の発達
<b>4時限目</b>	青年期と精神疾患
<b>5時限目</b>	青年心理学を保育に活かすために
<b>【成績評価方法】</b>	
面接授業内でのレポート成績で評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：白井利明編『よくわかる青年心理学 第2版』ミネルヴァ書房 2015年 参考文献：宮下一博監修 松島公望・橋本広信編『ようこそ！青年心理学』ナカニシヤ出版 2009年	

<b>科目名：多文化共生保育</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 金 俊華</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 文化の定義を学習し、異文化を相対的に理解することの意義について学ぶ。また、幼児教育現場における多文化共生の実践は、幼児・保護者・保育者のみならず、地域社会との連携を通して可能であり、そのためには異文化間の対話が必要であることを理解する。	
<b>【講義内容】</b> 文化の定義、文化相対主義、グローバリズムなど異文化理解に必要な基本的な概念について学習する。また、外国の文化や考え方について幼児期から親しみをもつための工夫や環境構成について学ぶ。また、日本文化を子どもたちに理解してもらうための知識や方法についても学習する。 また、世界の幼児教育の制度や動向について学習する。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 事前学習として、3法令を熟読し多文化共生の関連項目について学習する。また、世界の幼児教育の動向について学習しておく必要がある。また、スクーリングを通して学んだ知識を活用し、日常生活を通して新聞、テレビ、文献などの具体的な情報を多文化共生の視点で理解できる知見を獲得する。	
<b>【授業計画】</b>	
< 1日目 >	
1時限目	グローバル化と教育
2時限目	文化の定義
3時限目	異文化理解の視点①自文化中心主義
4時限目	異文化理解の視点②文化相対主義
5時限目	世界の幼児教育の動向
< 2日目 >	
1時限目	3法令にみられる多文化共生の理念
2時限目	日本語の学習が必要な子どもの支援
3時限目	保護者への支援と対話—多様性と「寛容」を育む家庭・地域社会との連携
4時限目	日本の幼児教育慣行と多文化共生
5時限目	テスト
<b>【成績評価方法】</b>	
テスト70%、授業中の発表30%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
・テキストは特に指定しない。授業中資料を配布する。 (参考図書) 1. 『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』チャイルド社 500円(税別) 2. 咲間まりこ編『多文化保育・教育論』みらい 2014年 1,800円(税別)	

<b>科目名：保育・教職実践演習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 金 俊華</b> <b>教授 三木 一司</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。</li> <li>・保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。</li> <li>・保育士、幼稚園教諭としての使命感と職務内容について理解する。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> <p>この授業では、これまでの学習と実習の成果をふり振り返りながら、保育士、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。従って、学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、発表・議論・ロールプレイ、模擬保育などを組み合わせ行う。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の中で、自己に欠けている課題を把握する。</li> <li>・保育者として必要なコミュニケーション能力の向上に積極的に取り組む。</li> <li>・授業中、要求される課題をまとめる。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	保育者としての自己分析
<b>2時限目</b>	保育者としての社会的使命と役割
<b>3時限目</b>	保育者としての教育的愛情
<b>4時限目</b>	保育・教育職の意義と職務内容
<b>5時限目</b>	家庭・地域社会との連携
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	子ども・保護者との信頼関係の構築
<b>2時限目</b>	保育者に必要なコミュニケーション能力：ロールプレイ（保護者への対応）①
<b>3時限目</b>	保育者に必要なコミュニケーション能力：ロールプレイ（保護者への対応）②
<b>4時限目</b>	ロールプレイの反省会・討論・発表
<b>5時限目</b>	まとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表：50%</li> <li>・試験：50%</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは指定しない。授業中、資料を配布する。</li> </ul>	

<b>科目名：乳児保育Ⅱ</b>	<b>開講学年：専攻科</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：講師 坂口 美由紀</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の理念と歴史の変遷や乳児保育の役割を学ぶ。</li> <li>・乳児期の子どもの発達について学び、その生活や遊びについて理解する。</li> <li>・乳児の沐浴や着替え、排泄等の対応について学ぶ。</li> <li>・保護者と保育者、関係機関等の望ましい連携について考える。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義やDVDで乳児保育の歴史や役割、乳児期の発達や子育て支援などの基礎的知識を学ぶ。</li> <li>・グループ演習で、乳児期の子どもへの対応や、保護者への支援など、保育者としての基本姿勢を学ぶ。</li> <li>・沐浴人形を使用して、沐浴や着替え等の実践を行う。</li> </ul>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での乳幼児の世話を通して、困ったことや分からなかったことなど感じたことを整理しておく。</li> <li>・授業後、実習での疑問や課題の解決を整理する。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	乳児保育とは何か。乳児保育の重要性。
<b>2時限目</b>	乳児保育の基本とその歴史の変遷。
<b>3時限目</b>	乳児保育における基本的知識と援助。
<b>4時限目</b>	乳児期の発達。
<b>5時限目</b>	グループ演習：0・1・2歳児の発達と保育内容。
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	ことばの発達と保育者の対応。
<b>2時限目</b>	グループ演習：現代の母親と子育て。
<b>3時限目</b>	保育者と保護者との連携と子育て支援。
<b>4時限目</b>	発達の遅れと向き合う。
<b>5時限目</b>	沐浴人形を使用しての実践。
<b>【成績評価方法】</b>	
試験（レポート作成）の成績70％・授業の積極的な参加30％	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：志村聡子編著 『はじめて学ぶ乳児保育 改訂版』 同文書院 2018年 参考文献：松本園子編著 『乳児の生活と保育』 ななみ書房 2011年 汐見幸幸監修 『保育所保育指針ハンドブック』 学研プラス 2017年 厚生労働省児童家庭局編 『保育所保育指針』 各社 厚生労働省編 『保育所保育指針解説 平成30年3月』 フレーベル館 2018年	

<b>科目名：子どもの健康と安全</b>	<b>開講学年：専攻科</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 川原 裕子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 身近なケガや疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる技能を習得する。	
<b>【講義内容】</b> グループワーク、グループ討議を行い、学生同士でモデル人形を使用し、身近な疾患、ケガ、事故に対処できるように講義を進める。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 各回の講義に該当する演習項目は、事前にテキストを熟読しておくこと。 子ども、健康、安全対策、応急処置などをキーワードとした新聞やインターネットの情報について、日常的に興味、関心を持つようにすること。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1 日目 &gt;</b>	
1 時限目	子どもの保健と安全についての概念
2 時限目	ベッドメイキング
3 時限目	心肺蘇生法、AED（モデル人形での演習）
4 時限目	身体測定（モデル人形での演習）
5 時限目	沐浴（モデル人形での演習）
<b>&lt; 2 日目 &gt;</b>	
1 時限目	バイタルサインの測定法
2 時限目	子どものケガ及び安全対策、発熱等に対するの応急処理
3 時限目	
4 時限目	感染症の対処方法（ノロウイルス等）
5 時限目	まとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
講義終了後の課題レポート、受講態度、プレゼンテーション	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：川原裕子編「子どもの健康と応急処置」海鳥社	

<b>科目名：保育実習事前事後指導Ⅱ</b>	<b>開講学年：専攻科</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 大津 泰子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ・「保育実習事前事後指導」「保育実習（保育所）」、またその他の教科で学習した内容を基盤に、保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。 ・指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。 ・保育士として自己の課題を明確化する。	
<b>【講義内容】</b> 「保育実習（保育所）」での自己評価と課題・今後の学習目標について再度確認する。それに基づき、具体的な内容を通して、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。さらに、「保育実習Ⅱ」に関する目的を明確にし、「保育実習Ⅱ」の終了後には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ・「保育実習（保育所）」の振り返りと、次回の実習に向けた自己課題を明確にしておく。 ・「保育実習（保育所）」の実習記録を準備しておく。 ・各自設定した「保育実習Ⅱ」に向けた自分の実習目標、課題、学習計画にそって、準備をする。 ・「保育実習Ⅱ」終了後の反省をふまえて、実習事後報告レポートを作成し実習日誌に添付して提出する。	
<b>【授業計画】</b> 1. 保育実習（保育所）の振り返り（報告会） 2. 保育実習Ⅱの目的・意義について。 3. 保護者・家庭への支援と地域社会への連携について 4. 教材研究・指導計画の作成 5. 保育実習Ⅱに向けた、各自の実習目的、課題、学習計画の作成	
<b>【成績評価方法】</b> ①授業への積極的参加20% ②報告会の内容30% ③「保育実習Ⅱ」にむけた各自の実習目標、課題、学習計画50%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：石橋裕子他編『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版』同文書院 2018年 参考文献：『幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子他 同文書院 『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 『保育所保育指針解説書（H30年3月）』厚生労働省 フレーベル館	

<b>科目名：保育実習事前事後指導Ⅲ</b>	<b>開講学年：専攻科</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 渡邊 暁</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 保育実習事前事後指導Ⅲでは、事前指導として、保育実習事前事後指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（施設実習）、また、その他の教科で学習した内容を基礎に、保育実習Ⅲに向けた準備を行う。具体的には、子どもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また家族への支援など保育の実践力を養うことを目的とする。さらに、児童福祉施設以外の施設についても理解を深める。保育実習Ⅲの事後指導として、自己評価を行い、保育士としての自己の課題を明確化する。	
<b>【講義内容】</b> この教科では、保育実習Ⅰ（施設実習）での自己評価と課題・学習目標について再度確認する。そして、それに基づき、具体的な事例を通して、実習計画作成、日誌の記録などにより実践的な内容を学習する。さらに、保育実習Ⅲの終了後には自己評価と保育士としての自己課題について考察する。 学習方法として、保育実習Ⅲに向けて、養護と療育に関する知識や技術をさらに高めるために、教材研究などの実践と資料等を用いて、児童福祉施設の理解を深めるための学習を行う。また、保育士としての倫理観を理解し、保育士としての自己課題を明確化するためのレポート作成を行う。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ・「保育実習Ⅰ（施設実習）」の反省点や自分の課題をまとめておくこと。 ・「保育実習Ⅰ（施設実習）」の実習記録を準備しておく。 ・「保育実習Ⅲ」終了後の反省をふまえて、実習事後報告レポートを作成し提出する。	
<b>【授業計画】</b> 1. 保育実習Ⅰ（施設実習）」の振り返り 2. 保育実習Ⅲの目的・意義について 3. 子どもの最善の利益と養護の理解 4. 教材研究・自立支援計画の作成 5. 保育実習Ⅲに向けた総理解・自己課題の明確化	
<b>【成績評価方法】</b> ①授業への積極的参加20% ②報告会の内容20% ③「保育実習Ⅲ」にむけた各自の実習目標、課題、学習計画30% ④「保育実習Ⅲ」終了後の実習課題レポート30%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：石橋裕子他編『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版』同文書院 2018年 参考文献：『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子・林幸範編著 同文書院 2017年 2,000円（税別） 『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド 第2版』太田光洋編著 ミネルヴァ書房 2015年 3,200円（税別）	



<b>科目名：保育実習Ⅱ</b>	<b>開講学年：専攻科</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：教授 大津 泰子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ・「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる。 ・子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養うことができる。	
<b>【講義内容】</b> 「保育実習Ⅱ」では、前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。 「保育実習Ⅱ」を履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。また、「保育実習Ⅰ」を終えておかななければならない。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする。 ・各自の実習のねらい、課題を明確にする。 ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする。	
<b>【実習計画】</b> 保育実習Ⅱでは、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める。 1. 子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う。 2. その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する。 3. 問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する。 4. 延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解。 5. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解。(部分実習、全日実習、査定実習) 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。 できるだけ、部分実習や全日実習を行い、実践力を養うよう努めること。	
<b>【成績評価方法】</b> ①実習日誌事後レポートなどの提出物50% ②実習園の評価30% ③勤務状況等20%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：石橋裕子他編『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版』同文書院 2018年 参考文献：『幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子他 同文書院 『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 『保育所保育指針解説書（H30年3月）』厚生労働省 フレーベル館 その他、書店で指導計画作成書や、教材研究に関する書物を探して活用すること。	

<b>科目名：保育実習Ⅲ</b>	<b>開講学年：専攻科</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 渡邊 暁</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 保育実習Ⅲは、既習の教科や「保育実習Ⅰ」での実践を通して学んだ技術と理論を基盤として、保育士として必要な資質、能力、技術を習得することを目的としている。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力と、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目標としている。	
<b>【講義内容】</b> 「保育実習Ⅲ」では、児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設での養護についての専門的な理解と技術を学び、児童家庭福祉及び社会的養護、障害者福祉に対する理解のもとに、保護者支援、家庭支援、障害児支援のための知識、技術、判断力を養う。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰの施設実習の反省点や自分の課題をまとめておくこと。</li> <li>・絵本やペープサート、運動遊びなどの保育実技を学習すること。</li> <li>・授業後にレポートを作成し、学習内容を深める。</li> </ul>	
<b>【実習計画】</b> 保育実習Ⅲでは、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設やその他の社会福祉施設の社会的役割と施設保育士の役割</li> <li>2. 児童福祉施設やその他の社会福祉施設における利用児・者と家族支援の理解</li> <li>3. 養護、療育内容・方法の理解</li> <li>4. 多様な専門職との連携</li> <li>5. 保育士としての自己課題の明確化</li> </ol>	
<b>【成績評価方法】</b> ①実習日誌などの提出物50% ②実習施設の評価30% ③勤務状況等20%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：石橋裕子他編『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版』同文書院 2018年 参考文献：『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子・林幸範編著 同文書院 2017年 2,000円（税別） 『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド 第2版』太田光洋編著 ミネルヴァ書房 2015年 3,200円（税別）	

